

老人福祉センター残すべきか？

区画整理記念事業で「廃止」に利用者ら賛否

「言われてきた施設を何でなくす」「年寄りだけの場も必要」「市民財産の切り売りか」「いや新施設で新しい高齢者活動のステップに」。今、港区老人福祉センター(夕凧)利用者の間でこんな意見が交わされています。一月に決定された「区画整理記念事業」計画案(前号既報)の中で、港区民センター(弁天)や港区子ども子育てプラザ(磯路)と共に二〇二二年度に廃止されることになったからです。これら三施設は弁天町駅前「世代間交流拠点」として再構築される「区役所」ということですが、区民に親しまれてきた施設の廃止がわずか一カ月の周知・論議で決められたことに対し、廃止の是非はともかく「区の将来に禍根を残す」との懸念が広がっています。

「年寄りだけの場必要」「市民財産切り売りか」「いや新施設を活動のステップに」

◆ 港区老人福祉センターとは

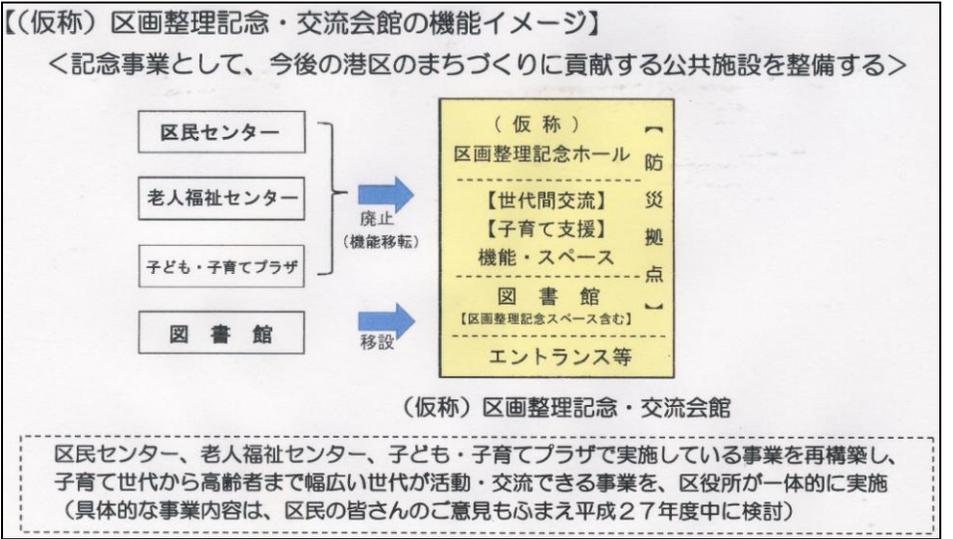
年(公布)に基づく老人福祉施設の一つで、無料

な相談に応じ、高齢者の健康増進や教養の向上

老人福祉センターは、老人福祉法(一九八三

または低額な料金で、老人福祉についての色々

またレクリエーションなどの機会を総合的に提



→ 区画整理記念事業で港区老人福祉センターなど三施設が廃止され「世代間交流スペース」として再構築されるといふイメージ図

供するようを目的として、全国各地に建設されてきました。自治体や社会福祉協議会などが運営し、その地域に住む六十歳以上の人なら誰でも利用できる、地域の高齢者の「コミュニティ機関」としての役割も果たしています。

このうち港区老人福祉センターは、大阪市の一九七八年に設立し、その運営には、委託を受けた社会福祉法人・大阪市港区社会福祉協議会が携わっていました。二〇〇六年度からは運営団体を決める方法が入札制となりましたが、同会が継続して受託しています。

こうして三十八年に回って港区の高齢者の憩いの場・学びの場・交流の場・生きがいの場として親しまれ、現在、「歌体操」「民謡教室」や「歌謡クラブ」「卓球サークル」など二十あまりの教育講座・サークルがあり、さらには年間を通じて「囲碁将棋大会」「作品展示会」「教養会」同発表会などの様々なイベントが催されています。

また港区老人クラブ連合会（一九五八年発足、二十三クラブ）、一五八〇名員の活動拠点としても活用されてきました。

◆ 早々と「廃止」が決定

この港区老人福祉センターの「廃止」が昨年十二月、区画整理記念事業（戦後半世紀をかけた水害に強い港区の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」の足跡を弁天町駅前に記念施設として残すという事業）の計画案の中で打ち出され、一月には早々と決定されたのですが、そのことについて、同センターに関わりのある人たちの声を聴きました。

◆ 運営者として複雑な思い

このうち同センターの運営関係者の一人は次のように話していました。

「このセンターを含む三施設が廃止されるといつ区民生活の大きな変化を意味する計画案が、わずか一月で、しかも運営者には結論が出てしまったからの『広報相談』で以て知らされたことに驚いています。ただ築二十七年のこの建物は設備やスペースが充分でなく、エアコンなどの機器故障や雨漏りなどで老朽化も目立ち、ことあるごとに所管の大阪市福祉局に訴えても契約管財局との関係でなかなかすべには対処してもらえず、更に二、四階部分に併設の元保育所職員寮は何年も前に閉鎖されて倉庫代わりに使わ

れている現状ですから、そのことを考えれば、建物が新しく造られるのはむしろ歓迎です。が、利用者の皆さん、特に近隣の人たちがらすれば、集まれる場所が遠くなる(弁天町駅前)移るのを不便に思われるのは当然でしょう。それだけではなく、お年寄りが心おきなく集まれる雰囲気、『世代間交流スペース』とこの名の新しい施設に受け継がれるのかどうか、むしろその点に皆さんが不安を感じられてくるのではないかと察します。その上、Minna Jyufa、この計画案は、例えば二十四区それぞれにある老人福祉センターを十八に減らすなど、『市政改革』の流れの中で打ち出されたのではないかと感じています。つまり、大阪みなみ中央病院の移転問題をきっかけに急進した今回の区画整理記念事業計画案に乗せて、このセンターなど施設の跡地を一気に合理化してしまおうと考えているのではないのでしょうか。そんな点をぜひ合わせて総合的に見れば、この港区老人福祉センターの廃止決定には、利用者にご覧いただく運営に及んでくださった者として、複雑ではありますが、意な出来事だとして思ってくださいませと。

←一九七八年に完成した港区老人福祉センター。雨漏りなど老朽化も見られるが、「修繕しても残してほしい」の声が利用者には多い



◆修繕して長く使って

また同センターを利用する高齢者のうち「歌体操」や「歌謡クラブ」などのサークル活動や様々なイベントを一緒に十年以上楽しんできたとてい金丸マユ子さん(港産在住の八十五歳女性)

清水良子さん(三先在住の七十八歳女性)は「弁天町に移ったら、今のよつこ、もう歩いては行けません」世代間交流も大事ですけど、年寄りだけが遠慮なく集まれる場所も必要です」「たしかに老朽化はしていますが、少々お金を取ってもよから、修繕して長く使えるようにしてほしいです」と話っていました。

◆「ロコから」の仲間たち

また「月下旬に」歌謡クラブのサークル活動に参加した山田初代さん(八幡屋在住の七十八歳)ら二人の女性は「弁天町に移ったら、もうこの歳で(自転車では)行けません」「ロコから何でもなんでもかかえず、大切に長く使ってほしい」「悪い所があれば直しても残してほしいです」と話っていました。

◆撤回入道もきいてみる

また「歌謡クラブ」「歌体操」などのサークル活動や「いちやう学園同窓会」の世話役などを続けてきた佐久間みち江さん(田中在住の八十一歳女性)は「弁天町に移ったら、もう私は行きました」「こは老朽化してきていて、狭いので、修理や拡張をしてほしいと毎年のように市にお

願うつもりでしたが、取り合ってもらえませんでした。それでも「はみんなが気楽に楽しんでくれる大切な場所。なくすくらいだったら、このままの姿でもいいから残してほしい」とこの私が私の正直な気持ちです。廃止を撤回してはみんなの希望を呼びかけようかと思いついた。「あ、いい」と話していました。

◆「廃止」口遊への

また「二月下旬に館内で「J」ヤードや囲碁将棋などを楽しんでいた男性の一人は「同センターが廃止されると六年先まで生きようから、ええわ」と笑いながら「ほとんど毎日来る。うちにおいたら嫁はんは煙たがられるけど、こいやったら気楽に「口遊」へ行く。話し仲間もある。職員さんもおええ人ばかりや。なくなったら、もう行かんわ。弁天町まで行けるかいな」との歳で「話していました」。

◆「利用者」が「本」の拠り所

一方、港区老人クラブ連合会委員としての地域活動や、「J」のセンターでのサークル活動などを楽しんでいた八十代男性は「難しい問題ですが、今の利用者はほぼ随分な人が決まっています」

「港区老人福祉センターは港区の高齢者の学びと交流の場、生きがいの場になってきた。写真は「教室合同発表会」、下は「作品展示会」



広がりがないことを考えれば、弁天町駅前で新しく生まれ変わる「J」に、これまでと違つ方たちが利用できる、港区の高齢者の本場の拠り所になるのではないかと思えます。また高齢者だけでなく、子供や子育て層など色々な世代と交わる拠点ができるのも意義あることだと思います。要は、センターの場所や形がどうであれ、色々な層と交わって自分の人生を意義あるものにしていくこと、高齢者一人ひとりの姿勢の問題ではないでしょうか」と話していました。

◆「新しい活動」へのステップ

またこのセンターを拠点として港区の高齢者

活動の先頭に立つてきた港区老人クラブ連合会の原田壽会長は次のように話していました。

「このお話を聞いた時は、とても良いことだと受け止めました。まず所在が港区の中心である弁天町駅前になって利用者の利便性が増すこと。それに現在の建物の老朽化や耐震性の問題も解決します。そして何より、世代間交流拠点として再構築されることにより、高齢者だけでなく、孤立的に活動するのではなく、青少年や子育て層とも刺激が合つて、より積極的に地域での活動ができます。これは時代の流れともいえる。私たち高齢者は今回の廃止決定をむしろ前向きに捉え、新しい活動スタイルへのステップにすべきではないでしょうか」

◇ — 以上に見てきたように、同センター廃止についての関係者の声には賛否両論がありましたが、その中で重く受け止めなければいけないと思ったのは、①年齢的・体力的に弁天町まで行けない②高齢者だけが気楽に集まれる場所が必要③古へも修繕して使いつけてほしい④市民の財産を採算第一で切り捨てるのは良くない

いーという声であり、そこから最後に残ったのは「弁天町駅前」に世代間交流施設ができるのは良いとしても、このセンターは廃止せず残しても良いのではないか」という思いでした。

言いつまでもなく、今回の区画整理記念事業によって「廃止される港区老人福祉センター」など三施設は、「これまで港区の各地域・各層に対して十分にその役割を果たし、利用者からも喜ばれてきた歴史があります。またこの事業で新たに打ち出された「世代間交流」については、区内の各小学校下など「それなりに実施されてきた経緯があります。そんな現状の上に、改めて港区全体の交流拠点をつくる意義が本当にあるのか」という疑問も消すことができません。

「世代間交流拠点」が無駄なまでは言えませんが、区政会議委員の声や、本紙「叫んでいとも一欄への提言」(いずれも前号参照)にもあったように、区画整理記念事業の中で突然に打ち出された大阪みなと中央病院(築港)の弁天町駅前への移転に力をつけて、この事業本来の目的(世界に誇るべき戦後港区の歴史的なまちづくりに事業を後世に伝える)を離れ、取って付けた

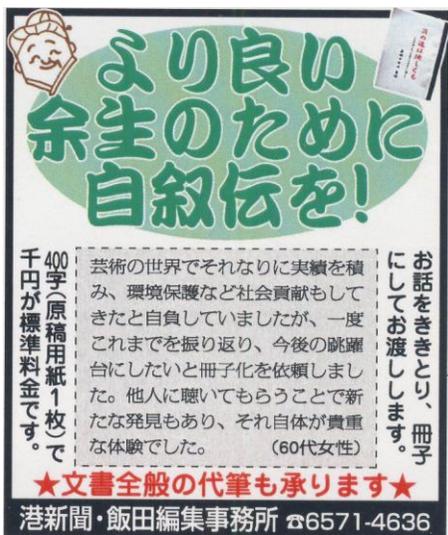
「世代間交流も必要やけど、年寄りだけが集まれる場は残してほしい」の声が強い港区老人福祉センター利用者。写真上は「ヒリヤード」下は囲碁将棋を楽しむ高齢男性たち



ような計画にも思えます。

またこれには、先述の老人福祉センター運営関係者の声にもあったように、「コスト削減と企業奉仕を主な目的に、市民財産を次々と民間に切り売りするという従来の手法を、この計画に乗じて、また「老朽化」をも口実にして、一気にやっつけてしまおう」という市の思惑も見え隠れします。「老朽化」を言うなら補強工事や拡張工事を施せば済むこと。「コスト削減」を言うなら「都構想」「カジノ誘致」「リニア鉄道」など財界だけが喜び市民には百害あって一利なしのプ

ランを中止すれば足りるのではないのでしょうか。いずれにしても、港区の高齢者や子育て層や区民全般の美益と喜びの場として立派に機能している施設をどうするかは、運営者や利用者や区民全般の声を十分に聴き、慎重の上にも慎重を期してなされるべき事業です。港区役所が「健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」(港区運営方針)を掲げるのであれば、また市長・区長が「市民協働」(行政と市民が力を合わせてまちづくりを進める)を唱えるのであれば、今からでも老人福祉センターなど三施設の「廃止」を撤回するか、少なくとも日紙に戻して区民議論にかけるべきではないでしょうか。



より良い余生のために自叙伝を!

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

芸術の世界でそれなりに実績を積み、環境保護など社会貢献もしてきたと自負していましたが、一度これまでを振り返り、今後の跳躍台にしたいと冊子化を依頼しました。他人に聴いてもらうことで新たな発見もあり、それ自身が貴重な体験でした。(60代女性)

40字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

あさやけ

「外は冬の雨まだやまぬ」この胸を濡らすように「一九七七年住山明生『氷雨』」てな感じで、外は小糠雨が街路を濡らしていましたが、舞台では「オーラスやダンス、民謡や歌体操など」に「手拍子や拍手が鳴りやまず、展示場では陶芸や生け花などを囲んで創作談義が満開の花。文字通り地域を越えた触れ合いの息吹が溢れていました。二月下旬に開かれた『春いちばんふれあいフェスティバル』(四十頁)の記事。取材で毎年見られた光景ながら、今年はずか熱いものが込み上げました。「こんな風にみんなが生きていたら、テロも戦争もないのに…」▼

確かに不思議な話です。イスラム国が人質殺害で存在を誇示すれば、有志国がその壊滅を狙って連日の空爆。ウクライナでは親露派と政府軍が果てしなき主導権争い。日本でも一月には少年や老人を標的にした殺害の連鎖。他にも数え切れぬほどの憎しみと争いが地上に溢れ、その犠牲者はテロだけでも昨年は三万人を超え過去最

多を記録しました▼古代ローマの雄弁家キケロはその著『友情論』の中で「憎悪と争いによって、根底から覆されることを免れたいような非常に堅美な家や非常に基礎の堅い都市が一体どこにあるか」と述べ、憎しみと争いが人間生活に何のプラスにもならないことを指摘し、続けて「友情は何かに多くの美点があるか」と和合の利点を強調しました▼また十八世紀ドイツの大哲学者カントはその著『永久平和のために』の中で「常備軍は時を追って全廃されるべきである。なぜなら…他国にいつも戦争の危険を感じさせ、そうして互いに他を刺激して、制限なく軍備の優劣を競うようにさせるからだ」と、武器を持つことがいかに国家間を底なしの争いへ引きずり込むかを説き、重ねて「人を殺すため、あるいは人に殺されるために雇われるというふうなことは…人間性の権利に恐ろしく有害に得ない」と、殺し合ひとどがいかに人間性を損なうかを強調しました▼

十九世紀ロシアの作家カルシンは露独戦争に一兵卒として志願、その著『四口罫』の中で「も

う顔の影も形もありはしない…その剥ぎ出しの骸骨がにたりと浮かべる笑い、最早消える時のない笑いが、俺には反吐が出るほど嫌だった」と戦場の悲惨を告発。さらにその後の「度の大戦や拳銃の原爆投下、それでも懲りずにベトナム、アフガン、イラクを舞台に、戦争また戦争の現代史は読者周知のこと。結局、どれだ賢者が警告しても効き目はなかったということが…▼」と「「手も煮えた」といって、冒頭の場面に登場したのは大半が女性だったことに思い至りました。その集団が期待せずして発する和やかな空気を、融け合いの精神。そこには男性社会に見られがちな、誇りや競争や縄張り意識がほとんど見られず、むしろそうした硬直・孤立・敵対の傾向を封じ込めるパワー、言い換えれば「君死にたまふことなかれ」「少女と申す者誰も戦争嫌いに候」と単刀直入に平和を求めた歌人・与謝野晶子ほどの熱と情さえもが伝わってきた▼

▼気づけば早や弥生三月。冬の雨を吹き飛ばした港の女性たちが、世界の春の訪れに微かな希望を抱かせてくれました。——と結んだら、ちよっつと「おはな」といっつうか。

叫びますよ！

やまもと ちょうすけ
山本 長助 さん (三先)



大阪人の心意気と政治の力で

港区の復活・発展を

住み慣れた港区を改めて歩くと、色々懐かし
く思います。小学校の頃、今から約二十五年前
ですが、当時、「ガンダム」というアニメが流行
そのピンポイントが全国的にブームになりました。

私も例にもれず、港区中の商店街を、ピンポ
ルを求めて自転車で走り回りました。その頃の
商店街は自転車の置き場も困るくらい人・人
で、今思えば大変な賑わいだったなと思います。

社会人になり、仕事で北海道から九州まで各
地に行く機会が増え、どこも往年の街並みは変
わり果て、大店舗がどの街にもあり、どこへ行
くとも困らないのですが、地域の味わい深い店
舗は減っている気がします。中でも大阪は銀行
の本店機能が東京に移り、大手企業が続々と東
京へ移転する中、有効な対策が打ち出せず、低
迷が続いています。その中で我が町港区も、大
型資本の店舗等はできましたが、中小の工場や
商店には厳しい時代が続いています。

◆ 中小企業の安定で区民の夢を現境

港区には中小の企業が多く、そこで働く人も
多いようですが、その人々には、マイカーや
マイホームの購入、結婚や子育て等々、個人や
家庭ごとの夢や将来設計があります。そしてそ
れを実現する基盤は、何となくとも働く職場の
安定した経営とそこから安定した収入です。
つまり私たちの港区にかつての賑わいを取り戻

すためには、工場や商店の経営を安定・発展さ
せることにより、一人ひとりの収入を安定・
増加させる以外ありません。

一年前、自民党に政権交代がなされましたが、
それは正に経済最優先を望む民意でした。港区
の復活・発展は区民一人ひとりの夢も、やはり、
具体的な政策によりこそ実現でき、それは政
治の力にかかっていると私は考えます。

かつて、昭和三年の天皇陛下の御大典記念に
あわせて大阪城の天守閣が再建されました。昭
和大恐慌の最中、娘を売らなければならぬよう
な時代に、なんと百五十万円（今なら数十億
円）という大金が民から寄付され、完成したの
です。余ったお金で公園が整備されたそうです。
商都の誇り高い大阪人は、アンチ東京の傾向が
強く、お上の力に頼らず民の力で街づくりをし
ようという気風が脈々と息づいています。

今こそ、様々な根根を越えて、我が港区の復
活・発展のために、大阪人の心意気と政治の力を
合わせまいしよ。その先頭に立ち、全力全開で
立ち向かうこと、それが私の使命だと思ってい
ます。

（山本長助 元大阪府政治産業委員会委員）

中村吉政さん！

なかむら よしまさ
中村 吉政さん (南市岡)



市民には何のメリットもない

都構想に反対を！

みなさん、住民投票は何を目的にしているかわれるか、知っていますか？

橋下市長率いる大阪維新の会と他の党が都構想をめぐって争っている中で、私は、

昨年の年末に公明党が方針転換をして、「都構想には反対だが、住民投票は了解する」としたために決められたのです。

◆何ぞ知らなくば投票へ？

大きくは「現在の二十四区を五つに分ける区割りに賛成かー反対かー」、「重行政を排除して無駄をなくす」に賛成かー反対かーというのが提案者の問いたことなのですが、市民は実際のところ、何も分からずまま投票をせざるを得ない状況になっています。

「中村吉政さん、市長は市の職員に職令を敷き、人事権を握られても、一切いちゃべるな」と命令したのです。人にしゃべって悪いような内容を住民投票にかけるのは、まさにバクチのようなものでしょうか。

◆全てを明らかにして信を問え

ましてこの内容は維新以外の政党が「どうして反対し、議会で議論もありません」といってなら、府でも市でも重ねて否決された案なので、それを少しだけ修正して、住民投票で市民の信を問うという手法は、議会監視もはなはだしく、無謀といつてもいいかもしれません。

仮にも信を問うなら、すべてを明らかにしてからにすべきでしょう。例えば「湾岸区」になるという現在の湾岸区民の新しい役所はいつになるのか、議会は「なごなご」。

◆湾岸区で有事に反対できるのか？

また、この二十年、我が国は大きな地震が二回もありました。そのため、よく報道されるのは「南海トラフ巨大地震」についてです。大阪湾沿岸には「地震の発生から何分で津波が来る」といふのが当たり前のように言われる時があります。特に、港区や大正区は四方が水に囲まれている関係で、被害が一番早く受け、その規模も甚大になるといわれています。

そんな時、真っ先に活動するのが役所の職員です。自分の身を懸けて市民のためになるのが市の職員です。今でも台風が発生すれば、関係部署の職員は二十四時間体制で市民の安全を守っています。では、橋下市長の唱える都構想の湾岸区では、有事に備えて一体どのような体制を敷くのでしょうか。

◆堺市民が反対した理由は何

やはり「昨年には堺市民が「都構想に反対す

「政」として現竹山市長を当選させました。「政令指定都市である堺市の権限や経済力を大阪府に巻き上げられたくない」「都構想には何のメリットもない」として拒否をしたのです。

私たちの大阪市も同じです。大赤字の大阪府の財政を支えるために大阪府のお金や権限を吸い上げられてはなりません。

◆橋下市長は無駄のシンボル

橋下市長は今回、タワマンリーディングで野党を批判し続けています。「無駄をなくす」「改革をする」「公務員はけいからた」などの発言が、「橋下さんなら何でもしてくれるのでは」という印象を与えています。が、実際、何をしていたのでしょうか。

橋下氏が政界に進出したのが二〇〇八年でした。それも「二万票ありえない」と言っていた矢先、自公で推薦を受け、熊谷氏に勝って知事になったのです。二〇一〇年には「維新の会」を結成し、改選の三カ月前に「市長になる」と言いつつダブル選挙に打って出た選挙。昨年三月には「市民の信を問う」といって、これまた無駄な市長選挙を行いました。橋下市長と

無駄のシンボルではありませんか。

新しい区割りでは新庁舎が必要というので、これまで数百億の金が必要と言われていますが、こんな大金を使って実行するメリットが、どれだけのものなのでしょうか。

◆いったん決まれば取り返しがきかない

「もかかかわらず」「一回やってみたらええや」と決まってしまう場合、「アカンかったら戻したらええ」といふことはなりません。また都構想についても、現法制では「大阪都」になることはありません。そんないったん決めれば取り返しのつかない大事な問題を、政治のフロアが集まる議会でチェックし、精査しながら、一体どうしようものか。

それをいさぎなり、肝心なことをまだほじくし知らせていなく市民に問うのは、民主主義のイロハ、議会主義のイロハも理解しない愚笨、暴挙といふよりはかあります。

◆子や孫のため「反対」の投票を！

橋下市長が仮にも「市民の信を問う」といふのなら、少なくともその前「都構想の」から十数年ぶりの「いい、しま、自分たち」鄭重

のよい（いい）より、でたらめ極まりない「テ

ータをもつてした」メリット「ただでなく、デメリットも明らかに、四月の統一地方選挙で信任された議員でもついで最初から議論し、各政党が了解した上で、住民投票をする—それが民主的というものでないでしょうか。

とはいえ最初「言ったまうな経過で住民投票が決まった以上、子供や孫たちに取り返しのつかないひどい大阪市を残さないためにも、それこそ圧倒的な「都構想反対」の投票行動を繰り広げ、一度とこんなでたらめなプランが出せないような空気をくり上げようありませんか。

（全国全農機械労働組合・港合同委員会）

働く仲間の相談所
倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも
困ってませんか？
無料
港合同（南市岡3-6-26） ☎6583-4858

被災地農民を支援します。
反原発の声をあげよう！
ご協力下さる方はご連絡下さい
三里塚産直野菜の会
磯路2-3-9（三社神社そば） TEL.6572-0130

叫びたい！

おおの
大野 ひろ子 さん (南市岡)



介護保険始まって以来の

大改悪に立ち向かおう

◆消費増税は何のため？

政府が「社会保障と税の一体改革」と称して「社会保障充実のためには消費増税は不可欠」と、政財界・マスコミあげて喧伝し、「それならば…」とびびりしお蔵成した人も多かったかな

と思われる消費増税。ですが、実際、八割以上がとてみると、物価は上昇、実質賃金は下落を続け、年金も無慈悲な切り下げ、生活は日ごと苦しくなっているのが実感、実態です。景気も深刻局面に突入しています。この先一〇割になつたのではないならぬや。方々から悲鳴が聞こえてきます。

片や輸出大企業やメガバンクは空前の利益と内部留保を記録。さらに強欲にも法人税の実効税率引き下げを要求し、安倍政権は「よっしゃよっしゃ」と約束しました。

《消費増税で今の社会保障制度は維持できない、また政府はそのつもりもない》

《消費増税は、社会保障や福祉を必要とする人々をさらに増やす》

これが真実です。

◆社会保障でも解釈改憲

「社会保障と税の一体改革」が政治の日程に上つてきたのは二〇一一年です。二〇一五年問題」と最近よく耳にしますね。一〇年後ですが、団塊の世代全てが七十五歳になります。世界トップの超少子高齢化・人口減少社会です。

これに対応するためには、政財界と御用学者たちは一体となって、戦後の社会保障制度の考え方、枠組みなどを抜本的・全面的に壊しつつくり変える絵を好き勝手に描いてきました。そしてこの間、これに沿って重大な新法成立や法改正が行なわれてきたのです。

ある学者は「解釈改憲される憲法二十五条」と厳しく批判しています。

《全ての国民には健康で文化的な最低限の生活を営む権利がある》

《そのために福祉や社会保障を向上させるのは国の義務》

これが憲法二十五条です。しかし、集团的自衛権行使容認の閣議決定で九条を変えてしまった「解釈改憲」と同じことが、社会保障・福祉でも進められているのです。

◆進捗採決の「医療介護総合確保法」

この間、年金も医療も、給付削減・負担増などがメジロ押していますが、この四月からは医療介護制度大改悪の一步が始まります。昨年八月成立の「医療介護総合確保法」といつ法律に基づくものです。

民主・共産・社民などが大反対し、田村厚生労働大臣を追及、まともな答弁ができず、答弁撤回や立往生を繰り返す…という状況にもかかわらず、自公政権は公明キリギリに審議を打ち切りの強行可決させたという代物です。

◆ 政財界はどんな医療介護の未来を…

①「自助・共助」

先の憲法二十五条にも同じくは、社会保障は国・行政の責任において税金を投じて行なう。つまり「公助」が基本であるべきです。

しかし「一体改革」では「自助・共助」が基本と打ち出してきました。自助、すなわち自分で何でも自己責任、家族責任で生きる。国や行政に頼るな…というわけです。共助、すなわち保険料は値上げ、給付は削減を前提とした保険という助けてくれる何かを…というわけです。

つまりこの国や行政の公的責任、税金の投入を限るな…削って…というわけです。

②「川上から山ト」 「医療から介護へ」

医療介護制度の大改悪は、医療を川上に、自宅での介護を山下に位置付け、「川上から山トへ」の流れをいよいよ加速させます。「病院・施

設から地域（自宅）へ」とも言っています。具体的には――

▽医療費を削減するため大きな急性期医療のベッド数を減らす（二十八万床→十八万床）。その上、入院期間も短縮する。都道府県に病院機能の再編や病床数削減の計画決定や管理の権限を与える（病院を減らせば入院したくてもできない、治ついても入院期間制限を追い出せば医療費を削れるというわけです。何という根性フルカー）。

▽そして追い出した患者の受け皿が「地域での介護」というわけです。「住み慣れた地域で医療と介護の包括的ケアができるシステムをいよいよ、とりやめねばならぬ」とも言っているのですが、中身は…。

◆ 施設は増えなく、とりやめねばならぬ

今でも五十万人が特別養護老人ホームへの入居を待っているのですが、施設は造らなく、造らせない、とりやめねばならぬというわけです。

現在、特別養護老人ホームへ入れる対象は要介護Ⅰ～Ⅴの認定を返している人ですが、この

四月から「原則要介護Ⅰ以上」という大改悪が実施されようとしています。十七万八千人、待機者の三四割が切り捨てられ、介護難民にされてしまいます。

◆ 要支援は…

比較的軽度といわれる「要支援Ⅰ、Ⅱ」と認定された人は、現在、介護保険を使い、公的責任において、通所介護や訪問介護が提供されます。

これを介護保険から切り離し、市町村が行なう地域支援事業に移行するとしています。市町村は三年間のうちに「地域包括ケアシステム」を構築し、「要支援者へのサービスをこなす」地域支援事業としてやれ」としています。やる、やらなくても市町村が決めます。

介護の担い手はNPO、住民ボランティアなども想定、資格はいらない、施設基準も不要と…しています。「元気な高齢者はいかにボランティアに駆り出す」とも…しています。

正に、《安上がり、無責任、不安定、危険なサービス》《老老介護の国家的推進》ではありませぬか。

◆ 介護費用の自己負担増

今までは介護費用の自己負担は1割です。これが八月から、所得によって割に引き上げられます。現在利用している人の中で六十五万人が対象です。施設から追いつかぬため、在宅サービスを中止、という事態も出さねばなりません。

現在、施設を利用している低所得者に対しては、居住費・食費の補助が出ていますが、一定の貯蓄があれば、補助を打ち切る改悪も実施されます。

◆ 介護報酬の大幅切り下げ

やはり三年に一度、介護報酬の見直しが行なわれますが、一月六日この内容が発表されました。平均二・二十七割の削減、介護保険始まって以来の大幅削減です。しかも「平均」というのが曲者。色々な要件をクリアして初めて受けられる処遇改善加算や、事業所への加算も含めての平均だからです。

これだけ削減しておいて「労働者の賃金だけは上がるはず」とは、何を根拠にのたまっているのか！ まったく怒り心頭に発します。労働条件の悪化、人手不足で介護の質の低下、事業所

の閉鎖や倒産の増加は必至です。

この介護報酬切り下げは、前述の医療介護総合確保法の施行に伴う大改悪とは別です。さらに介護保険料も上がります。

つまり、10GB月から、介護は三方向から大打撃をこうむるのです。

◆ 介護の市場化

要支援までは、あくまで手始め。二〇一五年度に回って政府は要介護IIまではせず、同時にサービス給付の内容と範囲、報酬を「トントン」切り下げようとしているのです。

将来、介護保険は使えない、介護も命も力次第！これが政財界の描く姿です。しかも民間保険や民間大企業の利潤追求のための市場として介護を売り渡していくという方向性が鮮明に打ち出されています。

◆ 山下から海へ流され溺れ死ぬ

「川上から山下へ」で「一件落着き」なイメージありません。多くの高齢者、家族を海に流し溺死させる「これが政府・財界のめざす」税と社会保障の一体改革に他なりません。

虐待、孤立死、高齢者殺し、心中の続出、高

齢者を餌食にした貧困ビジネスの蔓延…想像するまでもありません。

◆ 座して死を待たず、声をあげ闘おう！

多くの介護に関わる当事者が「このままでは生きられない」と危機感を募らせています。介護保険大改悪に立ち向かうために、現役の高齢者、将来の高齢者、介護労働者、介護事務所、自治体の行政等々、当事者が広く声をあげ、力を結集しましょう。

私たち港合同南労会支部も、その先頭に立ちつ奮闘していきましょう。

(港合同南労会支部) ☎6575-3133

1人で悩まないで！

職場に組合のない人、アルバイト、パート、臨時・契約労働者……。ユニオンおおさかはひとりでも、誰でも入れる労働組合です。働く人々が地域で助け合う新しい組合です。毎月の会費は、収入に応じて1000～3000円。経験豊かなスタッフが親身になって解決へ努力します。まずお電話下さい。無料。秘密守ります。



ユニオンおおさか

☎6575-3133

築港1-12-27 労働会館内

おどろきですわ！

おおつき かずなり

大槻 一成さん（磯路）

環境汚染とくらし分断の国道43号

高架上の無料化こそ先決

私がお手伝いしている「港生活と健康を守る会」の事務局（磯路 丁目）には、病气や障害で闘う人が多く行き来されます。港区民の生活の縮図のようにも思います。

◆みな中央病院移転に「困るわあ」

築港の会員さんが「大阪みなと中央病院（もこの大阪船員保険病院）が移転するんやって、困るわあ。めっさつらっつ」で診しもんたのんえのこ、「次から次へ話されます。この足では千舟橋は越えられん」という人もいます。八幡屋や市岡の人も千舟橋を越えて随分、船員保険病院のお世話になつていきます。他人（ひと）じゃあめ

ません。

◆配慮欠く区民分断の提起

「築港から医療をなくさないで」の声は切実だし、悲痛だし、もつともです。「区の真ん中に拠点医療を」という「移転計画」に期待を寄せる声も、「身近に安心・安全の医療がほしい」という同じ共通の思いです。それを、千舟橋を境に西と東に（また43号線を境に）分断するような「提起」こそ、配慮を欠いていると思えてなりません。

行政としても医療機関は、生存権の大切な柱である「健康な生活を保障する」という役割と責務を持つので、この「提起」を始めた以上、「築港地域の医療の確保」と「区の真ん中」に「拠点医療を」の両方の実現に責任を全うすべきだと思います。

◆弁天町交差点は最悪の汚染危険地点

つけても、「移転計画先」の立地「国道43号線沿道・弁天町交差点の一角」は、「市内最悪の大気汚染・騒音などの公害と交通の困難危険地点」であり、その解決が前提になくはなりません。まっつ「拠点医療機関」となれば、清潔

←二月中旬の朝五時、市岡中東側43号線を走る大型車。電光掲示板は「43号沿道の大気

■NO2高濃度！■湾岸線の「利用を」。早朝とりわけ大型車の集中はすごい。轟音と振動は今も「住んでみないとわからんでしょ」



で安心・安全、行きやすさ（しんぱん）のめ、誰も望みではないでしょうか。

実地（じ）R駅側からも、弁天町交差点の

一角に立って、[※]真新しい拠点医療機関が建ち上がった姿を想像して下さい。

大量の自動車（大型が多い）の往復が、渡ることを拒むばかりか視界さえも遮ります。地下道は車いすだけでなく自転車をも妨げています。坂で転んで大けがをした人を何人も知っていますが、最近、車道を突き抜ける勇敢な自転車（歩行者も）が増えていきます（朝八時前後では信「サイクル」に必ず数人）。いつか事故が起きるとひやひやですが、途中で声をかけたらもう危険ない。必要に迫られての勇断横断でしょ。1月の初め、いっしの死亡事故の供養が、花束が置かれていました。

◆ 牛浜沿道の断りし分断せ

地下道以外の43号線を渡る横断歩道三本は通学通勤のほか利用はまれ。分断された繁栄商店街をつなぐ地下道は埋められました。波除地域は区役所方面へ唯一バリバリでつないだ赤バスが廃止され、足の弱い人にとって「陸の孤島」になっています。日に数万人のJR乗降者の半分は43号線を横断しています。

1960年代、43号線の大交通量が、高齢化の

「二〇一五年二月一日、「第43回公害環境デー」で久志本・喜多教授らが43号線の港区・大正区の汚染の突出状況を特別報告



進む港区ののへららしをいかに分断しているか、見つめ直して、考えたいと思います。

◆ 43号沿道の公害で市内最悪

なりの公害です。公害せまへの主犯とされる

NO2は、「ディーゼル規制や」右折路設置による渋滞の若干の緩和」などで一時よりやや下がったものの、依然、大阪市内でも最悪の汚染度となっています。大阪府市は「平成二十一年度」全域でNO2環境目標〇・〇六PPMを達成した。なら「〇・〇四PPMをめざす」と発表していますが、港区には市の観測点もないのだから話です。

「このちやうどを守る港区民会議」が毎年六月と十一月に取り組んできた43号線沿道一十力所の自主測定では、ずっと「環境基準」よりかなり高い汚染度が記録されています。それは国土交通省が設置した市国元町常時観測点の測定値からも明白です。43号線弁天町交差点西南角はその地点なのです。

◆ 高架上の無料化を先決！

一月十九日、港区民センターでの「区画整理記念事業計画案・説明会」で、私は「国道43号線の高架上下を無料にして、環境と交通の危険を解決することが（大阪みなと中央病院の弁天町駅前への移転よりも）先決ではないか」と訴えさせていただきました。

国道43号線の汚染と危険の原因は、産業の大動脈として昭和四十五年開通の当初から、安治川大橋まで無料で走ってきた自動車が、弁天町から大正への（反対方向も）高架上が阪神高速の有料《大型四日田》とされたため（港区に用のない直進通過の大半大型車）数万台を港区の生活道路に走行させ、排気を高架の天井がこもらせて生じているのです。

◆「一週間」に住んで住民

国道43号線の大交通量が生活道路に引き込まれてから四年後の昭和四十九年、沿道の三十四人が国と高速道路公団相手に公害審査会に調停申請されました。その「調停申請書」は、「とても人の住める状態ではない。私たちは、相手方と騒音や排気カスが何ホーン、何ルームといった議論をするつもりは毛頭なく。国道と高速道路管理業者がこの地域に「一週間居住していただき、体で事情を調べていただきたく」と書かれています。

「基準や数値」と言っている側の姿に「おれ、おれ、」「一週間」どころか「一週」に住んで「わ」て訴える事情が胸を打つほどあります。

国・公団側は慰めに「西大阪線は三十年で無料になる」と強調しましたが大ウソ。植樹帯などどちらの「譲歩」で「民営＝有料」を押しつけ通しました。

以来、住民側は何度も請願し「無料化」を求めてきましたが、「民営のプール会計」が口実となつて、無料化は美現しなのまま。どれだけの命がぜんそくや肺がんや交通事故で奪われてきたのでしょうか。

◆「地面を渡りたい、孫子まで住み続けたい」

今、沿道の人を聞くと「一週間」でいいから「一週」に住んでみたい」と同じことを言われます。そして「子ども孫も離れてしまった」と。文字通り「孫子の代まで禍根を残して」るのではないでしょうか。その地に「拠点医療」といいますが、その前提として解決しなければならぬ問題だと思つています。

自分のペースだけでは歩けない波除のヘルパ一たんが「地面を渡りたい」と訴えました。「人間の声だ」と思いました。

「海生活」健康を守る

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

●天宮「筆供養祭・献茶祭」 使い古した

筆や鉛筆、ペンなど筆記具に感謝を込めて供養し、書道・文字・学業・習い事などの上達を願つ（筆供養祭）と共に、薄茶を神前に奉納（献茶祭）、最後に境内の桜を愛でながらお菓子とお茶を楽しむ（お茶席）。境内には地域の子供たちが手形で鱈を描いた鯉幟が揚がる（五月中旬）末頃まで掲揚予定。四月十八日（土）十四時から「筆供養祭」と「献茶祭」を併行して（十四時半から）お茶席（十七時最終受付、初穂料五百円）。供養したい筆記具は三日か事前



↑過去の「筆供養祭」から筆記具（上）とお茶席（下）

社務所へ持参。書く道具以外消しゴム・定規・筆箱などは対象外。祭典参列無料。焚き上げ供養は後日▽天満宮は三先一・五・四〇（港南中学校の北隣）、☎八五七二・〇五七。

●市岡・西明寺「花まつりキッズサンガ」お釈迦様（仏教を始めた人）のお誕生日（四月八日）を祝って甘茶をかけてあげましょうと毎年この時期に催される伝統行事。①甘茶接待②仏様のお話③ショータイム（バルーンパフォーマンス、ゆるキャラパフォーマン、紙芝居ほか）④お菓子のかみ取りなど楽しいプログラム。四月十一日（土）十三〜十五時に紫雲山西明寺（浄土真宗本願寺派西本願寺）で。参加無料。雨天決行。車椅子での参加OK。西明



→ 昨年の「花まつり」から甘茶接待①とショー②

寺は市岡一・一・四、☎八五七二・五八六。

●「表現の危機と集団的自衛権講演会」安倍

政権による秘密保護法施行、集団的自衛権行使容認、辺野古新基地建設、原発再稼働、消費増税、貧困と格差拡大の中で起こった「JR大阪駅前街頭宣伝弾圧」を取り上げ、表現の自由を守るための大切さを訴える。講師は秘密保護

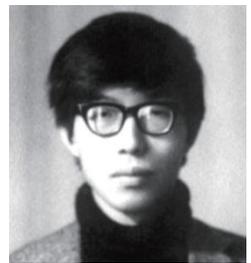
法・集団的自衛権に詳しい東京新聞論説委員編集委員の半田滋さん（〇七年第十二回平和・協同ジャーナリスト基金賞大賞、〇九年度日本ジャーナリスト会議賞、改憲と国防』『自衛隊

vs北朝鮮』『闘えない軍隊』など著書多数。終了後に質疑応答。JR大阪駅前街頭宣伝弾圧弁護団からの発言や当事者アピールも。二月二十五日（水）十九〜二十一時に北区民センター大ホールで。資料代五百円。賛同者募集。詳しくは主催の関西大弾圧救援会（garokitaih

01133@gmail.com）へ。

●獄中四十年 無実の獄壁から愛と希望「星野文昭 絵画展」 七一年沖縄返還協定批准阻止闘争で機動隊員死の「実行犯」として逮捕・投獄され、無実を訴え続けて四十年の星野文昭さん

→ 六七年当時の星野さん①と獄中絵画の一例②



（昨年十一月の「記事」）が獄中で描いた絵を展示。冤罪を晴らす支援活動の一環。二月二十日（金）十二〜二十時、二十一日（土）十二〜二十一時、二十二日（日）十〜十七時に弁天町ORC200生涯学習センターのギャラリーで。入場・鑑賞無料。☎七五〇三・七三三（実行委）

●「ワフクみなと」東北食品市 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワフクみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕凧一・六・三、☎六五七二・七五一一）。

●ム子打ち(首・腰) 無料相談会 交通事故で

ム子打ちになった被害者を対象とした無料相談会。三月二十日(日) 十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二一七-一六〇〇)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。「もししたら止まる補償が得られるかをアドバイスします」事故後、早めの相談が良い結果につながります(同事務所・野村光恵さん)。Eメール info@jikkou110-nomura.com TEL 六五七六-六〇七八、FAX 六五七六-六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一万二千円③会報を購読する④年間 千円⑤カンパする⑥税制上の優遇措置の⑦④絵はがき⑧黄土高原の花⑨を購入する⑩八枚組二百円⑪『オ』よみがえの森⑫を購入する⑬三十分五千元⑭換金できる物を送る⑮古切手・書き損じはがき⑯外国「イン・商品券など⑰ポスティング機にな

る⑱会報発送など⑲黄土高原フリーキングツアーに参加する⑳黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。その⑳案内DVD『黄色い大地に広がる緑く草の根環境協力の二十年』を観る⑳緑化協力二十周年を記念して制作。約三十分。無料㉑各種イベントに参加する㉒GEN自然と親しむ会渡り船で巡る大阪港とサクラ(四月四日(土)十時十五時ごろ、日本一低い天保山や渡し船でお花見散策。十時にJR桜島駅集合、地下鉄朝潮橋駅で解散。参加費七百円。定員二十名。申込締切四月一日(日)▽いずれも詳細(申込など)はGENの事務所(市岡一・四-二



→ GEN㉓とクリニクラウン㉔の活動イメージ

四・五階、☎六五七六-六一八一、FAX六五七六-六一八一、Eメール gen@tree@sdion.jp、http://homepage.s-nifty.com/gentree/へ。

●日本クリニクラウン協会

入院生活を送る子どもたちを定期訪問し、遊びコーナーモアを届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニクラウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。○五年から港区を拠点に全国で活動。一三年度は三四病院を二六〇回訪問、約八千人の子供と関わった▽一四年にはクリニクラウンが一人増えて十八名に▽一五年は十周年記念事業でクリニクラウンオランダ財団へ研修▽支援の方法①寄付する②会員になる③「フランスルー」(ひと月単位の)サポーターになる④関連イベントに参加する⑤他▽いずれも詳細や申込は同協会(築港二一七-五港振興ビル305A TEL・FAX 六五七五-五五九一 Eメール info@innicorwns.jp ホームページ http://www.innicorwns.jp/へ。

ホームまで避難できる

地鉄三駅交通局と区役所が市内初意



→新たに「津波避難施設」として使えるようになった地下鉄三駅の一つ「朝潮橋駅」。ホームまで避難できる協定が市内で初めて結ばれた

「津波発生時に駅周辺の人たちが避難できるように」と、大阪市交通局と港区役所は「二月六日、区内の高架駅である地下鉄中央線大阪港駅・朝潮橋駅・弁天町駅を「津波災害時における一時避難場所」として使用する」との協定を結びました。市営地下鉄の駅が津波避難施設となるのは市内では初めて。

◆改札内まで四〇〇人

協定によると、避難できる場所は「通路とホーム」で、駅舎のほぼ全体。これまで安全性への懸念などからネックになっていた「改札内までの避難が可能になった点が注目されます。また避難できる時間帯は「終日」。これによって、大阪港駅には約二二〇〇人、朝潮橋駅には約一四〇〇人、弁天町駅には約一五〇〇人、計約四一〇〇人が避難できるようになりました（避難可能人数は大阪市の基準「約一・二六メートル当たり一人」による）。

◆区独自で粘りの折衝

この問題については、関西広域連合と大阪市交通局など鉄道事業者が「二〇一一年から話し合ってきましたが、種々の障害があつた」同意に至

「津波避難施設として使えるようになった区内の地下鉄三駅のうち大阪港駅①と弁天町駅②



りませんでした。そこで、港区民の危機管理を担う区役所は「それなら独自で」と同区に話し合いを申し入れ、個別交渉が実現。そうして粘り強く折衝を重ねた結果、二〇〇九年には既に「改札前までの避難」に同局の理解が示されていました。さらに最大のネックとなっていた「ホームまでの避難」についても、「線路へ降りて電車と衝突する」「高架橋へ落下する」などの危険性があるものの、その危険性を避難者に警告し、最終的には「避難者の自己責任」として

◆「ありがたい」と周辺住民

朝潮橋駅付近に住む住民の一人で六十代の女

性は「子供の頃、第二室戸台風の水害で、まだ建設中だったこの駅舎に逃げ込み助かりました。その経験から言っても、避難施設は一つでも多い方がありがたいし、地下鉄ホームは高い所にあるので避難に適しています。区役所が動いて下さったこと」感謝します」と話していました。

◆ 意義の取り決め

交渉に当たった港区役所協働まちづくり支援課の大磯秀樹（おおし）課長代理は「南海トラフ地震では一・四分で津波が到達し、区内の八割が浸水する」と予想されますが、「これによって津波一時避難施設に避難できる区民の数が一気に四一〇〇人増えることになり、区の防災にとっては大変意義のある取り決めができたと思っています」と話していました。また交通局は「市内の津波浸水想定地域にある他の高架駅についても避難場所として使用できるように、各区役所と協議を進めていきたい」と話しています。

この件についての問い合わせは、大阪市交通同経営管理本部総務部広報担当（☎六五八五・六二二三）又は港区役所協働まちづくり支援課危機管理グループ（☎六五七六・九九二八）へ。

防災

いざ火災時に備えて

港消防署員が消火栓を定期点検



→「スムーズに消火できるように」と消火栓を定期点検する港消防署員。専用ハンドルで蓋を開けているところ。二月八日、田中三丁目

いざ火災が発生した時にスムーズに消火活動ができるように。港消防署（弁天二丁目）では火災予防活動の一環として消火栓の定期点検をしています。一月二日（日）朝には田中三丁目の消火栓の点検が行なわれていました。

この作業には同署・田中出張所（田中三丁目）の署員二人が当たり、地下式消火栓の蓋を開け、パッキンの状態や内壁の状態を調べ、その結果をチェック表に記載していました。

消火栓には地上式や地下式があり、大阪市内は大半が地下式。点検に当たった署員によると、港区内には約千カ所あり、それらを八区画に分けて一年で全部点検できるように段取りを立てているとのことでした。またパッキンや内壁の不具合が見つかれば、直ちに修理するとのことでした。



→地下式消火栓の使い方。ホースをつなぎ①、放水ハンドルを回し②、放水する③

特色ある活動学び合い

四区が地活協でフォーラム



「学び合ったら地域活動をさらに活発にできるか」と港区など四区の地活協が合同で催したフォーラムは二月二十日、港区民センター

「学び合おう」として地域活動の質を高めよう」と二月二十日夜、港区民センターで、港区など四区の地域活動協議会(以下「地活協」)が「チカツキョウダコー全員集合同」と題する合同フォーラムを開催しました。港・此化・大正・西淀川の各区地活協関係者ら約八十人が参加。

◆「田端のこいのぼり高めろ」と田端区長

開会に当たって港区の田端区長が挨拶として立ち、「市政改革の柱の一つである自律的な地域運営。その中心となる地活協が市内約二百の小学校下で発足してほぼ一年。港区でも各地域の特性に応じた活動も生まれつつあると感謝している。今日は各区・各地域での特色ある活動を、自慢しろい、学びしろい、高めろいほい」と呼びかけました。

フォーラムは一部に分けて行われ、第一部ではNPO法人サービスクラフの嵯峨生馬代表と大阪市コミュニティ研究室的堀内雄二主任の司会で、各区の地活協の代表者一人ずつが、それぞれの事例報告を行いました。

◆「活動の場の提供も担い手を」と此化区

この中で此化区梅香地活協の代表者は「若い

「特色ある活動を自慢し合い、学び合って高め合いを」と呼びかける田端区長(上)と、フォーラムを司会した嵯峨さんと堀内さん(左から)



担い手を発掘するのには」と題して報告。①各分野で既に活動している人を見つけ出し、その人たちの発表の場をこちらから提供してあげることで継続的な参加を促している②十年先二十年先へ担い手をつなごうとできるよう小学生にも役割を提供している③若手に参加してもらうことで盗撮のなまじに新しいスタイルが生まれた④その一方で古い担い手が引退現象も見られる一などの経験を語りました。

◆「若者の防災訓練へ発展」と港区

また港区磯路地活協の代表者は「自分たちの命は自分たちを守る」と題して報告。①一昨年の秋の避難訓練では「これで終わらっ」と大穴夫

か。」といふ不安の声がはやるころから出発した。②昨年の防災訓練では「自分たちの命は自分たちで守ろう」「自分たちで考える訓練」と意識しける。③地域ぐるみの取り組みとなった。④その中で自主防災組織「磯路風」を立ち上げ、自主防災マニュアル・防災マップを作成した。④活動を重ねる中で、置いしめばりを食らうことはできないというムードが高まり、継続的な参加が得られている。などの経緯を語りました。

◆「古紙回収で場づくり」大正区

また大正区泉尾地活協の代表者は「古紙回収を通じた場づくり」と題して報告。①四十五年



→若い担い手の発掘について報告する此花区

梅香地活協の山田さんと桐野さん(左から)④

と、「自分で考える防災訓練を語る港区磯路

地活協の佐野さんと古島さん(左から)④

前から古紙回収を続けている。②古紙の値段が落ちた時でも「コミュニケーション」の場として続けた。③「からちむち会、女性会、町会など」と交流の輪が広がり、それが今の担い手の基盤になっている。④子供中心のイベントを止画したり、ふれあい喫茶に子供を手伝わせたり、成人式を各地域で企画してまわったりする。⑤「よ」で将来の担い手の確保を図っている。⑥価値観やライフスタイルの多様化の中で、どう担い手を確保するか、特に若手の参加が課題となっている。などの経緯を語りました。

◆「おせっかい通信で見守ろう」西淀川

また西淀川区佃地活協の代表者は「おせっかい通信 健康への3課題の佃」と題して報告。①十一の専門部会を設けて活動している。②

そのうち福祉部会では七年前から六十五歳以上の千三百人に二百名のサポーターが毎月「おせっかい通信」を配っている。③その中で「インフルエンザに気を付けて」など必要な情報を届けると共に、「見守りのな機能も果たしている。④この活動は他の地域へも広がっている。⑤今後ますます高齢化が進む中でどうサポーターを確保す

↑古紙回収での場づくり」を報告する大正区泉

尾地活協の上野さんと川上さん(左から)④と

「おせっかい通信の配布活動を語る西淀川区

佃地活協の平田さんと井上さん(左から)④



るが課題。⑥医療部会では「健康セミナー」を年一回開くなどの活動を通じて地域と医療機関との連携を図っている。⑦今後は健康な人だけでなく体の不自由な人も参加できるようにすることが課題。などと語りました。

報告を受けて司会者からは先進的な経緯は、マニュアルを作ったり、他の地域へ講師を派遣したりして、広げてはどうか。などの提案やアドバイスがありました。

◆「直接交流と活動広げよう」

第一部は「大井戸端会議」と題して、参加者それぞれが「担い手の発掘」など興味ある四つ

のテーマに分かれて意見交換し、最後に各グループからの報告が行なわれました。

このうち「防災」グループからは、①リーダーとして実質的に動ける人を確保すること、②今後の課題③新しい担い手の確保には何でも言えるムードをつくることも大切④などの意見が出されたことが報告されました。

また「地域の場づくり」グループからは、①若い人が集まれる場がほしい②参加を促すには「興味がある」「楽しい」「満足感が得られる」「自分の役割がある」などの動機を持つこともいうことが必要③終わってから「ふれあい喫茶」などでの交流が次につながる④などの意見が出されたことが報告されました。

また「高齢者福祉」グループからは、①「おせっかい通信」は一人が数人の高齢者に届けているが、サポーターが負担を感じず、また高齢者の状態を看るのにはちょうどよい程度だ②苦勞もあるが楽しみもある③活動が続いている④町会中心の活動になりがちで、セラピーマンに参加しても一つの難⑤④四十五代から六十代から盛んに声をかけて参加を促している

「テーマごとに分かれて意見交換した」「大井戸端会議」⑤と、「この交流を機に特色ある活動を横へ広げよう」と確認し合った参加者⑥



などの意見が出たことが報告されました。

これらの報告を受けて司会者が、①「ちょっと楽しい」というプラスアルファが参加を促す力になる②③この交流をきっかけに直接連絡を取り合い、足を運び合って、各地活協の特色ある活動を広げていきたいと思います」と結びました。

◆「先進的取り組みが刺激」に参加者

終了後、港区南市岡から参加した七十代男性は「南市岡と同じく、長年の古紙回収を通じて場づくりをしている大正区泉尾の取り組みが参考になりました。この地域もそれぞれの特色をもつ活動を探してみたいかなら分かります」とも勉

強になるイベントでした」と話していました。

また港区磯路地活協の代表として事例報告に立った佐野耕司さんは「西淀川の『おせっかい通信』などの先進的な活動を直接聞けて、『井の中の蛙でおいたらあかん』と刺激になりました。今日は防災を中心に報告しましたが、防災についても最後は普段からあいさつし合える結びつき、つまり地域力が物を言います。磯路の取り組みもそのための一つですが、防災は港区全体の課題でもあるので、「これからねが、オール港」の取り組みになるよう、広げていきたい」と話していました。

とにかく得電ねん!

LED照明に 換えてみませんか!

コスト減 + 環境貢献
(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全社屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部
(LED照明・企画販売)

市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
http://www.maedamachine.com

みなとサロン

ああ、劣化する日本人

池島・勝部 泰臣 八十一歳

九年前の第一次安倍内閣で、一年の間に五人の大臣が辞職。一人を除いてカネの問題で、七年後の二次内閣では、記憶に新しい女性大臣一人。そしてまた一人（もつと出るかもしれない）。ほじんどが戦後生まれである。任命する人も、もちろん戦後。

日本人全体が劣化しつつあるとは、識者が新聞、テレビで指摘する嘆かわしい事実だが、肝心の、国をリードしていく大臣たちが劣化の証拠を見せつけてくれるんだよね。世界中に恥を曝している……。自分たちで作った法なんだぞ。何が「ごへひり説明」しても、分からないういには分らないことだ。分らないのはあなただけのせいだ。

数学者といふ文豪としての定評の藤原正彦さんが田舎で寝た、主張してあつたの。

——ここ数十年、小中高における国語の授業時間は漸減してきたが、それに呼応するようにつに祖国愛も低下してきている。祖国の文化、伝統、情緒などは文字にのこるものでもなく表わしている。国語を大事にする、というところを教育の中軸に据えなければならぬのである——『祖国』は国語『新潮文庫』。

数学者から出た言葉だけに、説得力ある提案である。塾や英語に力を入れる今の大臣なんかより、この方に文部科学大臣になって欲しい。

ゆとり教育のツケがそろそろ来そうないや来ての今、日本人一人ひとりがつくりと考える時ではないか。

区画整理記念事業の論議は不充分

市田元町・七十代 元公務員

「区画整理論議は充分なされたか」 区画整理記念事業『計画案』決定も過剰残す。」「区画整理」を説く。

井のの詳細・膨大なコスト感（読者終りの「二井芳」）。説明会には参加でもせ

んでしたが、これで十分に内容や雰囲気がかめました。関心ある方々が色々な角度から質問や意見を述べられ、それに区役所や大阪市の担当者が逐一丁寧に誠実に答えられる様子が手に取るように、まさに区政を巡るこの『真剣勝負』といった印象を受けました。こうしたいわば市民協働の論議の場は、特にこのような重要問題の場合、私自身の公務員時代の経験からしても、絶対に必要だと改めて思った次第です。その上で分かったのは、貴紙も主張しておられるように、やはり区民論議の不充分とわ。

説明会や区政会議では、築港で四年前先に総合病院がなくなる問題をはじめ、実に色々な問題が指摘され、そのどれもが区民生活に関わる重大問題です。区画整理の歴史を記念し継承するという趣旨からはずれているのではないかと根本的な疑念も出されたようです。にもかかわらず、その骨格部分が、わずか一月間、一度の説明会と区政会議を経ただけで決定されたというのは、むしろいって過剰な気がします。

「広報みなと」(11月)と「市田元町長は「事業案の公表から決定までの議論期間が短い」との批

都構想やめてんか!

怒ってる人”が集会・デモ



→「大阪市つぎの都構想を阻止しよう!」「貧困と格差をなくそう!」などと区民に訴えた「港総行動」のデモ隊。二月二十六日夜、みなと通

「大阪市つぎの都構想を阻止しよう!」「安倍暴走政治をストップさせよう!」。二月二十八日(木)夜、小雨ふる夜のみなと通に力強いシュプレヒットが響きました。「怒っている人大集合!」の呼びかけに応じて集まった区民ら約百人に上る「港総行動」のデモ行進です。毎年この時期に催される恒例の活動。港総行動実行委員会(区内の諸団体の集まり)が主催。デモに先立ち、夕方から入舟公園(八幡屋)で開かれた集会では、労組や区民団体の代表が庶民に関わる国政・市政・府政の諸問題を取り上げ、警鐘を発しました。

◆アベノミクスで悪化は大企業だけ

このうち港(労働)連(港区の労働組合の集まり)の浦田議長は「大阪都構想の狙いは大阪市議会つぎだ。赤バス全廃、敬老バス廃止などこれまでの市民いじめに加えて、市議会をつぎ、住民を分断し、新庁舎など膨大な無駄を生むもの。市民には何のメリットもない。投票日にはノーを。またアベノミクスで悪化を受けるのは大企業と大金持ちだけ。消費税や地方創生や農協改革やTPPや労働者派遣法改悪で、労働

者も農家も中小企業も商店も、さらにガタガタになる。トランプ・プーチンさんが唱えるように金持ちから取って庶民に回すべき。格差社会を止すため、共に行動しよう」と呼びかけました。

◆当り前の社会へ力を合わせよう

また日本共産党の吉川れいこ(港区府政対策委員長)は「まじめに頑張っている人がなげ苦しむのか。なぜお金持ちだけが優遇されるのか。都構想は大阪市をつぎ、カジノ誘致や大開発を進めるのが狙い。住民投票では反対を。まじめに頑張る人が守られる。当り前の社会へ力を合わせよう!」、同じく日本共産党の竹内よしゆり(港区市政対策委員長)は「選挙結果を白紙委任として暴走する安倍政治は許せない。

サービス残業合法化、消費税、社会保障破壊、原発再稼働、辺野古への米軍基地つくり強行」等々、悪政のオンパレードだ。その防波堤となるべき市も府も関西財界の言いなり。その集大成が都構想。これを庶民の連帯と団結で打ち破ろう」と呼びかけました。

◆憲法九条や二十五条を守ろう

また、港生活と健康を守る会(生存権を掲げ

て活動する区民の集まり」の大槻一成さんは「安倍政権がトリクルダウン（大企業や金持ちのお金が下流層に回る）という経済理論」を唱える一方で、生活の全てに関わる生活保護基準をどんどん切り下げるのは憲法二十五条（生存権）違反ではないかと、港区の三人を含まず五十人で訴訟を起した。全国民的な裁判になるために支援を、港民主商工会（港区の中小零細業者の集まり）の西尾事務局長は「トリクルダウン理論や、日本の消費税は低くという理屈の誤りは、あと何力と行動だ。我々中小零細業者は確定申告を控えて行動を起すが、労働者も力を合わせて頑張る」、港戦争展実行委員会（港区で戦争展を催す人たちの集まり）の豊田委員は「故フーシゼッカー氏の言葉にめるようにならねばならぬ。過去に目をしぼるものは現在に對しても言ひなぬ。戦争展は三十一回でいったん打ち切ったが、周辺諸国で軌轢を繰り返す安倍政治に戦争の危機（憲法九条の危機を感じ、八月十七日二十五日、十六日）を再開する。皆の力で成功させよう」と呼びかけてくれた。

←入舟公園の集会では「安倍内閣の暴走ストップ」「憲法改悪反対」なども訴えられた



◆ シュプレッパ、みなで通を行進

集会のあと、参加者はみなで通を東へデモ行進。小雨の中、「安倍暴走政治をストップさせよう」「大企業は身勝手な派遣切りをやめよう」「大企業は内部留保を吐き出せ」「人間らしく働けるルールを確立せよ」「最低賃金を千円に引き上げよう」「貧困と格差をなくせよう」「安心して買える物で溢る商店街を守れ」「大企業・資産家への優遇税制を改めよう」「集団的自衛権の容認反対」「秘密保護法を撤廃しよう」「憲法九条を守ろう」「米軍基地は日本から出へ行け」「日米安保条約を廃棄しよう」「米軍への思いやり予算を撤廃せよ」「原発ゼロの社会を実現しよう」「消費税の増

税は許さないぞ」「社会保障の切り下げ反対」「安心して暮らせる年金制度を確立せよ」「介護保険制度を充実せよ」「国民健康保険料を値下げせよ」「大阪市がぶしの大阪都構想を阻止せよ」「労働組合活動への不当な支配・介入はやめよう」などのシュプレッパで道行く人々に訴えながら、市岡元町公園まで歩きました。

◆ 港労働者や主婦がコメント

解散後、初めて参加したという二十九歳の男性労働者（全港漁阪神支部）は「大阪港で荷役などの仕事をしています。今は正社員ですが、いつクビになるか、非正規になるか、分からないので、デモ行進では特に雇用関係のシュプレッパに力を込めました」。

また、途中からデモ行進に加わった五十一歳の女性（市岡元町）は「いろんな問題が気になりますが、中でも大阪都構想が橋下市長によつてどんどん進められていくのが危機感を持っています。庶民には百書あつて、何も良いことありません。住民投票では絶対に反対を投じます」と話していました。

自分に何ができるかな

中学生がジュニア防災リーダー講習



→災害時に自分ができることは？ 防災の知識や技術を学んだジュニア防災リーダー養成講習(写真は二月二十日、市岡中での図上訓練)

「自分にできることは何だろうか」。災害時に自分や家族や地域住民を助けることのできる力を中学生に身につけてもらおうと、港区では中学一年生を対象に「ジュニア防災リーダー養成講習」が行なわれています。二月三月には全五中学校で実施されましたが、そのうち市岡中(二月二十日)の様子を覗いてみました。

◆「釜石の奇跡」に学び

講習は、三年生百数十人を対象に、港区役所、大阪市危機管理室、港消防署、地域防災リーダー(五名)の協力を得て午後一時すぎに開始。開会セレモニーでは担当教師が「きぼうと行動し、いっしょでもいっしょでいっしょ」、港区役所協働まちづくり支援課の大機課長代理が「防災教育の徹底で三千人全員の命を助けた。釜石の奇跡」に学び、君たちも人の命を助けられる人間にそれぞれ呼びかけ。このあと生徒は二グループに分かれ、あとをき交差する形で図上訓練と消防実技訓練が行なわれました。

◆校区の地図と「図上訓練」

このうち図上訓練は、体育館で大阪市危機管理室の防災アドバイザーやコーディネーターが

指導。まず、地震のメカニズムや津波の怖さ、一種類の地震(東日本大震災のような「東南海・南海地震」と阪神淡路大震災のような「上町断層帯地震」)での港区の被害想定などを、災害についての基礎知識をスライドで学習。

そのあと居住地によるグループごとに校区の白地図を囲み、災害マップづくり挑戦。災害時に必要な道具や場所(消防ポンプ・公共電話・フォークリフト・シャッキ・車いす・担架・津波避難ビル・病院・警察福祉施設など)をはじめ、広い道路、災害時避難所・広域避難所、さらには地震発生時に危険な場所などを、赤や緑のシールを貼ったり、黒・青・茶・緑・黄などのペンで塗りつぶしたりして仕上げていきました。

グループごとの発表では「尻無川など危険な場所も多いが、大きなマンションなど逃げやすい所もあることが分かった」「避難できる高いビルや学校が近くにあるので安心した」「安治川が近いので、危険を感じた「近くに大通りがあるって逃げやすいことが分かった」「道路が狭いのが気になった」などの感想が出されました。

◆消火器やロープで「実技訓練」

一方の消防実技訓練は、校庭で港消防署員や防災リーダーが指導。災害時に役立つ技術を一人ひとりが実際にやらせてもらいながら、順次学んでいきました。

「このうち「三角巾による応急手当」の訓練では、「左手を負傷した」という想定で、「等辺三角形の頂点を脇腹に」などと署員や防災リーダーがアドバイス、生徒たちは二人一組で相手の体に布を巻きつけたり結んだりしていました。

「消火器の扱い方」の訓練では署員が「消火器の噴射はどのくらい続くか。五分一分、三十秒、十五秒、五秒」とクイズを出題。「十五秒」という正解に「えー」。①ピンを抜いてホースを「②火に近づいて素早く確実にかける③大きい火には通用しないので消防隊に任せる」などのアドバイスを受けながら、粉の代わりに水が入った模擬消火器を一人ずつが的に向けて噴射していました。

「布担架の作り方」の訓練では、①毛布を広げ②その上にポール一本を平行に並べ③毛布をたたんでいくという手順説明を署員から受けた後、二人で実際に作り上げ、一人を乗せて持

←校庭では災害時に役立つ技術を学んだ。上は布担架を作り上げて喜ぶ男子生徒ら、下は防災リーダーから巻き結びを習う女子生徒たち



ち上げていました。

「ロープの結び方」の訓練では、簡単でしかも人や物をしっかりとつなぎ止められる結索法である「巻き結び」などを署員や防災リーダーが伝授。生徒たちは鉄棒に向かい、マンツーマンの指導を受けながら、真剣な表情で習得に励んでいました。

◆地域の中学生の役割

最後に再び体育館に集めての閉会セレモニーでは、校長が「地域の中で君たちは大切な役割を持っている。人の命は真剣でないと守れない。その心構えを持つ入り口になった」と精神

面の大切さを強調。生徒代表は「災害時に活躍できるように、今日の貴重な体験を生かしたい」と決意を披瀝。区役所の大機課長代理は「港区では市内で唯一、全地域で防災訓練を実施している」と区の先進性を改めて紹介。担当教師は「君たちの中から地域防災リーダーが生まれることを地域は期待している。今日学んだことを家族にも広げよう」と激励しました。

◆「何を学ぶのか分かった」と生徒

終了後、生徒数人は「毛布とポールで簡単に担架が作れることに驚いた」「簡単でしかも人や物をしっかりとつなぎ止められる結び方があることに感心した」「三角巾一枚で応急処置ができることに感動した」「消火器は十五秒しか発射できないことを知って、素早く扱ふ必要があることを学んだ」「地域には危ない所も役に立つ所も両方あることが分かり、全体をつかめた」「災害時には、担架で運ぶ、小さいの手を引く、消火器を扱っただけがでかい」「これまで気持ちはあっても何をどうしたらよいか分からなかったが、今日は具体的に知ることで、有意義だった」などと感想を語ってくれました。

築港ソングで活性化

レポート 山中さん作詞・作曲



↑レポート 山中さん作詞・作曲の「当地ソング

『築港らんらんらん』に乗せて踊る築港の老

若男女 二月二十七日朝 築港西公園で

「築港 築港 らんらんらん 築港 築港 らんらんらん」。優しいリズムとメロディに乗って明るい表情で歌い踊る築港の若男女。築港西公園で毎週金曜朝に行なわれているラジオ体操のあとすっきりお馴染みになった光景です。流れる歌は『築港らんらんらん』。築港地域の名物・風物が一杯歌い込まれた「当地ソング」。作詞・作曲はレポート 山中さん。『サッポロ黒ラベル』などのCMソングや温かなメッセージソングで有名なシンガーソングライターです。

● 熱意は山中さんリアクティブ

他の地区に先駆けてこんなオリジナルソングができたのは、地域活性化を願う住民の熱意でした。その一人で、長年地域活動に関わってきた阪上眞奈美さんが昨春、熱意なファンである山中さんに「駄目でも」の気持で「築港の歌」を作ってもらえませんか。お金はあきらめずとて「ど…」と働きかけたところ、日本各地を歌い歩く行脚ついでに山中さんは「かまへん」として快くOK。その地域の歌の「場所」は「築港」の広場「築港二丁目」に来てもらって、歌詞の打ち合わせ。地域を熟知する数人が、築港の歴史や名

物・風物を、地域愛を込めて熱く語りの言葉を、山中さんは逐一メモに書き留めていきました。

♪ 美しいメロディに風物ちりばめ

数カ月後、送られてきた曲には、夕陽や天保山や海遊館、赤レンガ倉庫や築港高野山や築港住吉神社、それにかつての市電や大栈橋までが、山中さんならではの美しい曲に乗せて左右のようになりはめられ、「これやっとらみな喜ぶわ」と一回大満足。山中さんには大感謝の上、地域活動協議会の「コミュニティビジネス」として靴下などを売った収益から僅かばかりの謝礼。

十月には築港地協としてCD 100枚を製作。同月の「港区民まつり」では模擬店店頭で流して「ビルゴロー」。他の地域の人たちを「ええなあ」と羨ましがらせてました。やはり、舞踊家でもある築港中学校PTA会長の稲王一博さんが曲に合わせた踊りを考案。それもセットにして十一月二日、地元の大イベント「天保山まつり」の正式のお披露目となりました。

● 「築港ソング」が元気な子どもたち

「ビルゴロー」から四カ月余、ラジオ体操のあとで『築港らんらんらん』を踊っていた清田和子

ん(七四)＝築港三丁目＝「単調なわりになかなか覚えられませんでした(笑)が、二気が出て本当に楽しい。」と、築港の活性化もわがことですよ。歌詞には余裕もありませんが、それもまた愛嬌です。同じラジオ体操に参加した十八歳の女性は「ラジオ体操は二週間一回くらい来ます。築港の歌がきいて、本心に嬉しくです。踊りはなかなか覚えられませんが、楽しい二気が出ます」と話していました。

また、築港地域の女性会や港区の生涯学習の世話役をしている磯川ミズ子さんは、「リピート山中さんに作詞・作曲を働きかけた阪上さんからは「子供からお年寄りのまで誰もが親しみやすいメロディの中」、築港の魅力がたっぷり詰まっています。リピート山中さんには「はの素敵な歌。」と、これからも色々なイベントで流したり踊ったりして、築港はもろもろと、港区のテーマソングとしてきた「わが」と意識を叫びました。

なおこの『築港らんらん』は築港地協から五百円で販売。既に百二十枚以上売れましたが、売上の一部は同地域の子供たちのサッカーや野球などの全国大会出場を支援する横断幕

← 『築港らんらん』のCDと、作詞・作曲したリピート山中さん



作りなどに使われていることとします。購入などの問い合わせは毎月十一日十五時までに築港高野山東側で開設の「ほろひろ場」まで。

● 『築港らんらん』の歌詞

♪ 築港 築港らんらん 築港 築港らんらん
 一等二角がめる ちやんとした山の中で

は日本一背の低い山が「この町」をひえ立てて
 保山西に向かい海が開ける 大阪港の目標として
 天保時代の昔から 出船入り船見しめて
 港の歴史 人ひとの暮らし 移りゆく時の中
 へとも旅に出よう 築港 築港らんらん 築港
 築港らんらん シンバエザメも踊っている
 遊びにおいでよ 海遊館・築港 築港らんらん

らんらん 築港 築港らんらん 日本一キレイな夕陽が海を染める 築港

♪ 滝のある海水プールや 娯楽施設「センタ
 ー」もあった 大阪で初めての市電が 港の賑わ
 いを運んだ ハシケ 棧橋 外国船 世界の人と
 物が出会った そんな昔のおもかげ探し ぶらり
 彷徨う商店街 波瀾万丈 栄枯盛衰 この町は
 大阪のタイムカプセル 築港 築港らんらん
 ん 築港 築港らんらん 赤い煉瓦の倉庫や
 シトロなビルがたくさん 残っている 築港 築港
 らんらん 築港 築港らんらん 日本一
 キレイな夕陽が海を染める 築港

♪ 狛犬が笑っている 鳥居が逆向きに立つ
 ている 不思議な謎に包まれたそこは 港 住吉
 神社 かつては四天王寺さんと 肩を並べてた
 由緒あるお寺 弘法大師がご本尊の 築港
 高野山 戦火越えて 天災越えて 築港のお祭は
 世代を越えて 築港 築港らんらん 築港
 築港らんらん 嵐の口でも登れる 高き四
 以五三ツツ 天保山・ 築港 築港らんらん
 築港 築港らんらん 日本一キレイな夕陽
 が海を染める 築港

仕事の苦勞と喜びと

繁栄商店街などで 市岡中生が職場体験



「ありがとうございます。頑張ってますね」。果物販売などを通して仕事の実験を学んだ市岡中生の職場体験学習。二月六日、繁栄商店街

「大根百円、バナナ百円、キャベツ百円。どれも安いですよ」。元気な呼び声に通行人が足を止め、次々と買い求めます。二月八日午前、南市岡三丁目の繁栄商店街では市岡中学校（磯路）の生徒たちがアーケード下で食品や衣類を販売していました。同校が毎年取り組む「職場体験学習」のひとつ「コマ」です。同校では今年も港区内の官公庁・企業・商店などの協力を得て二月五、六日に一年生百数十人が十数カ所の職場に入りましたが、このうち体験先に同商店街を選んだのは、男女五人でした。

◆市岡中 年生五人が商店街へ

五人は、一日目はポスターやチラシや値札などのポップ（販売促進のための道具）作り、メールやフェイスブックを使ったPR発信などの準備作業をこなし、一日目には商店街の通路に机を持ち出して、その上に商品を並べ、「超特価セール」と銘打った街頭販売に挑戦しました。男子三人に託されたのは、板こんにやく十枚、糸こんにやく十パック、大根十八本、キャベツ二十四玉、玉子（十個入り）四十パック、バナナ十五房、ポンカン二十個など、主に生鮮食品で、

「上は靴下等の販売に力を合わせる（左から）中山さん、柴田さん。下は果物等の販売に力を合わせる（左から）宮城君、加藤君、筒井君



一個 百円のポンカン以外はみな百円。

一方、女子二人に託されたのは、靴下百二十足（各五十円）、タオル二枚十三セット（各一百五十円）、ティッシュ（五箱）四十八セット（各百五十円）などの衣類・日用品。どれも店主らが生徒たちのために「原価割れ」を承知で提供したものです。

◆食品は完売、衣料品も大半売った

販売は午前十時半にスタート。フェイスブックなどで事前に販売を知っていた人たちが、通りがかりに呼び込みやポップに惹きつけられた人たちが次々と近寄り、「安いねえ」「これもら

「わ」などと声をかけながら商品を選び、代金を手渡します。「ありがとうございます」でした。「頑張ってるね」。特に最初の三十分は、同時に何人ものお客さんが群がり、大変な混雑。五人は戸惑いながらも真剣な表情で対応を続けました。やがて正午前に食料品は完売。衣料品なども大半がなくなりました。「お疲れ様〜」「よっ頑張ったね」。商店街の人たちがねむらひの言葉をかける。五人の顔にはホッとした表情が一緒に浮かびました。

◆「言葉交わす大切を学んだ」と中山さん

体験を終えた五人に感想を訊きました。

「このうち衣料品販売などを担当した中山智鈴さんは「人と接するのが苦手で、それを克服するために思い切っちゃってみよっ」と、この商店街を選びました。初めはいつも不安でしたが、商店街の人たちがとても優しくして下さり、安心しました。販売の中では、うちらがあこがれるようなお客さまも言葉を通して丁寧で、気持ちの通じ合ったように感じ、人間でいいがお互いに言葉をお互いに大切さ、楽しさが分かりました。学校では国語で数学が好きで、将来は

←商店街の人たちの助言でイラストなどを入れて仕上げたポップは大きな威力を発揮した



文学関係の編集者になれたらと思っていますが、今回の体験は、そんな仕事に就いた時に、作家の方たちとやり取りする時に役立つのではないかと思いました」と話していました。

◆「計算がすかかった」と柴田さん

同じく衣料品販売などを担当した柴田万穂

さんは「私はお金の計算、特に暗算が苦手なので、それを克服するのに役立てばいいなと思って、この商店街を選びました。ポップ作りでは幼稚園以来、使ったことのなかったワレヨンがうまく使えて楽しかったです。販売の中では、安い物をたくさん買ってもらえるお客さんの顔を見るのが嬉しかったです。でもやっぱり、その場で素早く計算するのは難しかったです。学校では理科の植物分野が好きです。将来は建築家が作家になりたいと思いますが、特に建築では計算が絶対に必要なので、この体験を機会にも、慣れるようにしたいと思いました」と話していました。

◆「連携の大切を学んだ」と加藤君

また食品販売などを担当した加藤颯人君は「父(フリーマン)と母(弁当店経営)の仕事の苦労を知りたいと、この商店街を選びました。

販売では、最初に大勢のお客さんが一度に來られて慌てましたが、連携プレーで乗り切りました。一日間を通じては、五人がそれぞれの得意を出し合い、また不得意を互いにカバーし合っていて色々な仕事をこなしました。そんな体験から、

仕事の中ではチームワークや協力が大切なことを学ぶことができませんでした。嬉しかったのは、お客さんの『めりがうっ』の言葉です。将来は漫画家になりたいと思っていますが、その仕事もやはり一人ではできず、編集者やアシスタントとの連携が必要なので、その点でも今回の体験はいつも役に立ちました」と話していました。

◆「お金稼ぐ大変ぞ知った」と筒井君

同じく食品販売などを担当した筒井碧都君は「僕は計算が得意だと皆から言われていますが、それは小さい頃から下のお母さんの買い物に付いて行って、一緒に計算をするなどして慣れていたからです。販売ではそれを生かすことができて良かったんです。嬉しかったのは、加藤君や宮城君と同じく、お客さんの『めりがうっ』の言葉です。またチームワークの大切さも学びました。お母さんは建築物の設計の仕事を、お父さんは倉庫でフォークリフトの運転をして僕たち子供を養ってくれています。そうしてお金を稼ぐ（かせ）ための大変さを知りたいと、この商店街を選びました。学校では卓球クラブに入っています。将来はパティシエ（お菓子作り職人）

になりたいと思っていますが、その仕事もやはりチームワークが重要なので、今回の体験はとても勉強になりました」と話していました。

◆「ポップ制作に苦労した」と宮城君

同じく食品販売などを担当した宮城光政君は「僕は南中區に住んでいて、この商店街はよく通り、親しみがあつたので、ここを選びました。一日間で一番苦労したのは、ポップの制作です。アイデアやデザインがなかなか浮かんでず、苦労しましたが、何とかでき上がってホッとしました。嬉しかったのは、加藤君や筒井君と同じく、お客さんの『めりがうっ』の言葉。とても繁盛して嬉しかったです。その中で協力の大切さも学びました。学校では地理が好きです。お父さんは工場、お母さんはトラック会社で働いており、ぼくは将来、飲食店で働きたいと思っていますが、この仕事はお客さんとのやり取りが特に大切なので、今回の販売経験はいつも役に立ちました」と話していました。

◆「「めりがうっ」は偉い言葉だ」と理事坂本

生徒たちの世話に当たった同商店街振興組合の小嶋幸浩理事長や近藤田香利さんは「毎年五

六人から十数人の生徒さんを受け入れていますが、今年の子は、『ポップにイラストを入れる』効果があるよ』などアドバイスするようすべに採り入れる素直さや柔軟性があり、またとても元気で、助け合いもバッチリでした。「職場体験の受け入れは大変といえば大変だけれど、地元の中学生の将来に役立つだけでなく、こちらも楽しく、元気をもらえ、また商売の原動力を学び直す機会にもなっています」などと話していました。

筆 代

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

頑張れ！武蔵川部屋

春場所健闘へ港区民ら激励



→「全員が勝ち越しめざして頑張ります！」と力強く決意を表明する武士ら武蔵川部屋の力士
 〓二月二十八日、ホテル大阪ベイタワーで

「頑張りますので応援よろしく！」。春場所を

前にした「月二十八日夜、ホテル大阪ベイタワー」(并大)で武蔵川部屋激励会が催され、港区民ら二百数十人が参加しました。

◆元横綱 武蔵丸が親方

武蔵川部屋は東京都江戸川区にあり、師匠は第八十七代横綱・武蔵丸光偉(四三三)。ハワイ出身で、現役時代の成績は幕内優勝十一回、十四年間で通算連続勝ち越し五十五場所は歴代一位外国出身力士として引退当時は最多優勝回数十一回を誇りました(現在は白鵬が保持)。

相撲部屋としてはまだ若く、第五十七代横綱・三重ノ海が営んでいた武蔵川部屋を再興する形で二〇一三年四月に発足。親方と部屋付き親方(元小結垣添)の下に、二段目までの弟子八名、床山二名、行司二名、それに女将とマネージャーで運営されています。

◆阪神の岡田元監督も激励に

激励会には吉本興業の元漫才師・鳳(おん)キングさんの司会を進行。部屋の発展を願う後援会長の挨拶を受けて、親方や力士らが「春場所では全員が勝ち越せるよう頑張ります！」と決意表明。阪神

←激励する岡田元監督(左)と武蔵川親方家族(右)



タイガース元監督・岡田彰布さんは監督時代の「選手を育てる難しさ」に重ねて「弟子を育てる難しさ」に思いを寄せつつ、「一日も早く関取の誕生を」と激励を送りました。また親方夫人は七カ月の長男を抱きながら来場者と交流して回り、松竹芸能の浪曲漫才師・暁(あけ)光夫さんや若手女性、ハフオーマーらが賑やかな音曲漫才やパルーン奇術を披露して、宴席に華を添えました。

◆港区民も「頑張れよ！」

会場には後援会員を中心に、港区からも多数が来場。市岡から参加した八十代会社社長は「以前から目をかけているところ(武蔵川)で、福岡出身を自席へ招き、「頑張れよ、これから応援しているからな」。田中から参加した六十代の姉弟は武蔵川親方や岡田元監督と写真に納まつたりサインをもらったのりして「機嫌でした」。

弁天クラブが初優勝

区民バレー十九チーム熱闘



港区の女性たちがバレーボールを通じて交流を深めました。第二十一回港区民女子バレーボール大会が二月八日、港スポーツセンター(田中)で開催され、十九チームが熱闘。弁天クラブが優勝、市岡小学校PTAチームが準優勝を飾りました。港区バレーボール連盟と港区役所が主催、港区体育厚生協会が協賛。

●「交流を第一に楽しんで」と数下会長

開会式では福井真田美・港区バレーボール連盟副会長の司会のもと、主催者を代表して数下俊文・同連盟会長がこの大会は港区民による港区民のためのスポーツ行事。勝敗も大切だが、何より交流と親睦を大切に楽しくプレーを、田端尚伸・港区長は「今年は港区発足九十年。戦災や水害を乗り越え発展してきた歴史を振り返りながら、未来に向かってまっすぐのりを進めていきたい。その中で二十年以上に亘って続いてきたこの大会は港区の女性パワーの表われ。地域を越えて交流し、このパワーを区全域へ広げてほしい」とそれぞれ選手たちを激励。

また来賓を代表して西徳人・大阪市会議員は「一九二三年にアメリカから伝わったバレーボ

ールは九人制など日本独自のスタイルも採り入れながら発展してきた。日本語の『排球』にはボールを下に落とさない(球を拾い続ける)との意味が込められ、勤勉で協調性のある日本人に合っており、絆を深めるのに最適なスポーツだ。こうしたイベントを通じて地域がさらに発展していくことを願う」と大会への期待を表明しました。

このあと参加選手を代表してSEEDの亀田明美さんが「本日の場所に送り出された家族、そしてこの大会に携わる全ての方々への感謝の思いを胸に、日頃の不満をひとまず忘れ、楽しく朗らかに、また爽やかにプレーすることを誓います。宴会部長・亀田明美」とコメントを交えた宣誓で会場を沸かせました。



→爽やかに宣誓するSEED・亀田明美選手

→十九チームが交流した区民バレーボール大会
 二月八日、港スポーツセンター(写真は決勝でスパイクを打ち込む弁天クラブ・小田選手)

● 粘り強いプレーの応酬に沸く

西市議と藤田あきむ市議による始球式（サーブを各図に、熱戦がスタート。三コートに分かれた予選リーグの上位四チームが決勝トーナメントに進出。準決勝では弁天クラブが波除女性会を、市岡小学校PTAが港南を、いずれも二対〇で降して決勝へ進みました。

決勝では四試合目であって両チームとも疲れ

がピークに達する中、粘り強いプレーの応酬で

会場を沸かせましたが、高尾治美主将を中心に

セッター金城の的確なトスを受けた小田、

奥澤、杉森、西川らによる層の厚い攻撃、全選

手による鋭いサーブ、穴のない守備力、高くて

的確なブロックを誇る弁天クラブが、堀陽子主

将を中心に、セッター戸川の俊敏な正確なトスを



→ 始球式でサーブを打つ藤田市議(上)と西市議(下)

受けた堀、坂本静華、坂本愛、中西、藤本らの

スピード感溢れる攻撃で対抗する市岡小Pを、

二対〇(二十一対十六、二十一対十五)で降し

ました(以上、試合経過は敬称略)。

弁天はこの大会初優勝。八月の連覇杯優勝

十一月の市長杯優勝と合わせて今年度の大会の

完全制覇を果たしました。市岡小Pは第十二回

大会以来五度目の優勝成らずも初の準優勝。

三位は波除女性会と港南。五位以下は順不同

で築中O.B、AUNTS、港南中PTA、TANA

NAKA、波除小PTA、南市岡クラブ、MIS

SAKI、SHIBUYA、港南O.B、LINK、港

中O.B、SEED、うみの、CHICKO、

八幡屋クラブ。

● 閉会式では敢闘賞も

閉会式では福井副会長の司会のもと、田中

喜美子副会長が成績発表を行ない、三位までの

チームへの表彰と共に、CHICKOに敢闘賞

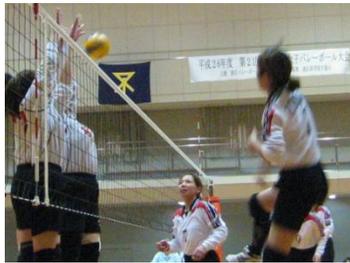
が贈られました。

なお、会場にはごしずみ鍼灸整骨院弁天一

丁目など区内外に十数店舗の施術士二人が常

時待機。足首の捻挫や突き指を訴える十人前後

← 決勝戦でスパイクを打ち込む市岡小P・堀選手(上)と、敗退後も大会を支えた選手たち(下)



にマッサージやテーピングなどの応急措置を

施すなどして選手たちの安全を支えました。

● 新セッターで心二つに

大会終了後、優勝準優勝チームに感想を訊き

ました。このうち優勝の弁天クラブは弁大小P

TAチームを母体に結成されて二十数年。数下

俊文監督(港区バレーボール連盟会長)、高谷

潔コーチ、西川サブコーチの手厚い指導のもと

と、回校で毎週二回(時間二時間)の練習を重ね

てきました。年齢幅は二十代から六十代。

インタビューに応じた高尾主将は「初優勝で

きた上に、連覇杯、市長杯と合わせて三冠を達

成でき、これ以上の喜びはありません。セッター



→初優勝に沸く弁天クラブ(前列中央は区バレ
ー連会長でもある数下監督、後列左端は区役
所からの委託で運営実務を担った吉井さん)

「がベテランの藤川さんから金城さんに代わって初めての大会で、不安も大きかったです、皆の気持ちがあつて」(つ)とまとまり、金城さんもその大役を最後まできっちり果たし続けてくれたことが大きかったです。とはいえ、決勝の第二セット序盤に、油断からミスが重なるなど、まだまだメンタル面で未熟なところがあるので、この優勝に善いず、どんな状態でも安定したプレーができるよう練習を重ねていきたいと思っています」と話し、喜びの中にも顔を引き締めていました。

●フリーの粘りで進む

一方、準優勝の市岡小PTAチームは同校で週一回、各一時間半ほどの練習を重ねてきました。バレーボールを心から楽しもうと和気あいあいの緩やかなムードがチームカラーです。インタビュにに応じた堀主将は「この大会で最後となる坂本愛さんと坂本静華さんを最高の形で送り出すことが出場して準優勝でき、とても嬉しいです。決勝まで残れた要因は、フリーが長く続いた時に粘り抜けたこと。坂本愛さんの強いサーブで流れを作れたのも大きかった

←準優勝に爽やかな市岡小Pチーム(後列右端から区バレー連・浜口、福井、田中の各副会長



です。今後に向けてはサーブの安定度を増さんと、それにサーブカットからのつなぎをさらに強めたいと思っています」と話していました。

六二ペアが白熱戦

スポーツセンター利用団体がバド交流



→六二ペア・一二四選手がシャトルを追って心地よい汗を流した「港スポーツセンター利用団体交流会バドミントン大会」二月二日

港スポーツセンター(田中三丁目)を利用する

バドミントン団体の交流を深めるため年二〜三回ペースで続けられている「港スポーツセンター

利用団体交流会バドミントン大会」が二月一士二日(日)、同センターで開催されました。港ス

ポーツセンター利用団体交流会(岡野三津茂代表の主催で二十一回目。区内外の三十団体から

六二ペア・百二十四選手が出場、ランク別・ミックス(混合)ダブルス個人戦に心地よい汗を流しました。

◆高岡・弘瀬ペアが優勝

朝から夕方まで続いた白熱戦の末、各ランク三位までに入ったペアは次の通り(敬称略、カッコ内は所属団体名)。

Aランク①高岡真(モノクロ)・弘瀬真(同)②上林尚道(WLB)・藤本御陽子(SO

B)③梅木正信(三先クラブ)・梅木文子(同) Bランク①①土居慎太郎(モノクロ)・土居

佳世子(同)②山川豊(所属なし)・西本みゆき(フレンドリー)③真田亜由(所属なし)・植野

真田美(同) Bランク②①吉岡敏雄(LIBRE)・梁小

鳳(シャトルフレンド)②横田晃一(精華シャトルズ)・西田千佐子(同)③岩崎充宏(フリジヤンテス)・三木千佳子(同)

Bランク③①武本義弘(TSJ)・山本三平代(同)②高崎達也(フリジヤンテス)・有村房

子(同)③森田英樹(精華シャトルズ)・森田舞子(同)

Bランク④①勝原雅夫(WLB)・福本由紀(港南PTA)②高島里香(市岡高校)・木下

愛香(同)③上野優樹乃(港高校)・坂井田怜奈(栄真学園)

Cランク①①村瀬勝英(所属なし)・磯部絵美(フレンドリー)②高取知弘(WLB)・穴吹

裕美(同)③西田任年(精華シャトルズ)・西原園子(同)

Cランク②①西谷人志(CHIKKO)・西谷里津子(同)②道家剛(南市岡小P)・平野慧

(同)③市岡信吾(市岡東中OB)・浦本智里(市岡高校)

C・Dランク①松岡雅克(田中クラブ)・松岡直子(同)②政田尊弘(中央市場BC)・中崎

愛(同)③松下晃子(市岡高校)・花澤孝一(同)

試合に勝つのが嬉しい！

ソフト45大会 優勝は港晴子ども会



→低学年の子供たちも試合で活躍する喜びを味わえた「第七回 港区子ども会ソフトボール45大会」二月十一日、港高校グラウンドで

「選手の学年合計が四十五まで」というユニークなルールを掲げた児童スポーツ行事「港区子ども会ソフトボール45大会」が二月十一日（祝）、港高校グラウンドで開催され、十二チームが熱戦を展開、港晴子ども会チームが優勝を飾りました。

この大会は八年前、子ども会ソフトボールの関係者が「大会はどついても六年生が中心になつてしまつ」と問題点を話し合ひ、「スポーツをやりたひ子供たちの意欲を大事にしよつ」と出場機会に恵まれない低学年にも活躍の場を」と冒頭の運営規則を考案して発足。以後、実行委員会の主催で毎年続けられてきました。

●「失敗しても笑つて」と高橋委員長
七回目となった大会には、区内の各小学校下の子ども会（築港、港晴、八幡屋、池島、三先、市岡、南市岡、波除・市岡元町、弁天、田中、磯路）から十一チームが出場。午前九時半からの開会式では、大会委員長の高橋忠晃さん（市岡）が「寒さに負けず、失敗しても笑つて、楽しく元気にプレーを」と選手たちを激励。三々四々チームずつ三コートに分かれての予選、続いて

予選上位四チームによる決勝トーナメントが行なわれました。

好天下のきりりとした寒気の中、各コートでは、高学年男子投手のスピードボールに必死でバットを合わせる低学年女子選手など、学年を越えてソフトボールを楽しむ子どもたちの姿が微笑ましく、指導者やチームメイトや保護者が「よかったよ」「ごたまい、ごたまい」などと温かな声援を送っていました。

●「優勝の喜び」上里君
試合を待っていた選手たちにインタビュしました。このうち「波市ソフトボールクラブ」（波除小学校下）波除・市岡元町の子ども会チーム、二十数選手（上里光希主将（波除小五年）は、恒石陸虎前主将（六年）の後を受けて主将になり、この大会では一塁手で一番打者として出場します。）、ソフトボールは四年生の時に清水君に誘われて始めました。練習では走るのがしんどいですが、打つのも守るのもメチャ楽しいです。野球も大好きで、イケメンで守備も打撃も走塁も素晴らしい阪神の西岡選手に憧れています。自分は肩が強いので、それを生か

してプレーしたいです。この大会に出場するのは「回目」で、去年は一勝一敗でした。今日は主将として、チームのみんなが声を出して元気にプレーできるのが引く張り、できれば優勝したいです」と話していました。

●「三位以内」と小西君

また「三先子ども会ソフトボールチーム」の小西聖也あおい主将「三先小五年はこの大会には初めての出場。ソフトボールは四年の時、子ども会であっていたので自分もやってみよう」と始めたそうです。「練習では走るのがしんどいですが、



→二度目の優勝を喜ぶ港晴子ども会チーム①と準優勝にも爽やかな八幡屋子ども会チーム②

打つのは楽しいです。(自分の守備位置である) キャッチャーは、二振を奪はらった時はとても気持ちいいですが、走者をけん制するのは難しいです。今日はキャッチャーで四番打者として出ますが、主将としてみんなを引く張り、できれば三位以内に入りたいです」と話していました。

●「自信がける場」ジョーチ

またあるチームの男性「ジョーチは「うちのチームは毎週土日祝に各五〜六時間、三〜四人の指導体制で練習していますが、どうしても練習間隔があくので、練習の成果をつなげ、積み重ねるのに苦労しますね。この大会は低学年に出場機会を与えるだけでなく、港区子ども会ソフト

ボール大会など大きな大会への場慣れになり、また選手たちが自信をつける場としても、大いに役立つと思います」と話していました。

●「優勝手前」の活躍—トーナメント

又方今まで及んだ熱戦の結果、決勝トーナメントの準決勝では八幡屋子ども会が池島連合子ども会に三対二で、港晴子ども会が三先子ども

会に三対二で勝利。決勝では港晴子ども会が八幡屋子ども会を十一対二で降し、この大会度

←決勝トーナメントで3位に入った池島連合子ども会チーム①と三先子ども会チーム②



目の頂点に立ちました。八幡屋子ども会は初の栄冠を目前に健闘及ばず準優勝。池島連合子ども会と三先子ども会が三位に入りました。

三位までのチームの監督・主将名は次の通り。
優勝・港晴子ども会⇨大森監督、今岡主将▽準優勝・八幡屋子ども会⇨大峰監督、眞鍋主将▽三位・池島連合子ども会⇨橋本監督、関山主将▽三位・三先子ども会⇨武田監督、小西主将
歴代優勝チームは、第一回が池島、第二、三回が築港、第四回が池島、第五回が港晴、第六回が田中。

なお、この大会への問い合わせは高橋大会委員長(☎090-9708-6487)まで。

市岡小が雪辱のV4

区P卓球 十四チーム総当たり戦



→ 十四チームが白熱の総当たり戦を展開した
 「第三十四回港区PTA親善卓球大会」。11月
 月一日、港スポーツセンター(田中三丁目)で

「卓球を通じて各校PTA間の親睦を」と11月一日、港スポーツセンターで港区PTA親善卓球大会が開かれました。港区PTA協議会の主催、港区教育親和会の後援で三十四回目。自主運営(公的機関の支援を受けない運営)となつて三回目。区内十七の市立校・園(五中学校、十一小学校、一幼稚園)のうち、市岡東中と磯路小と三先幼稚園を除く十四のPTAチームが参加し、朝から夕方まで、一度目の試みである全チーム総当たり戦を繰り広げました。

◆「お茶目なブレイも」稲生を賞

開会式では稲生一博・港区PTA協議会会長(築港中PTA会長)が「優勝を目指す熱戦の中にも」初心者相手にお茶目なブレイを入れるなど(親睦を第一にした)楽しい大会に。子供たちの健やかな成長を願つて、今後PTA活動に「協力を」と呼びかけました。

また来賓の田端尚伸・港区長は「学校の枠を越えた素晴らしいスポーツ交流。楽しさと親睦の中にも勝負にこだわった熱戦を期待する。区役所もこうした交流に加わってほしい」、後援の港区教育親和会・名古屋和秀会長は「卓球は手

←和やかな選手宣誓風景①(右は宣誓する築港中学校PTAチームの代表 高森美佐紀さん、左は港区PTA協議会会長 稲生一博さん)と、礼儀正しく爽やかだった試合前の光景②



軽にできるがハードでもある。ケガのないよう安全で楽しい一日にとそれぞれ祝賀と激励の言葉を贈りました。

このあと築港中チーム代表・高森美佐紀さんが「仲間と共に卓球できる喜びを胸に、日頃の練習の成果を發揮し、ケガのないよう安全に留意し、全力でブレイすることを誓います」「要領とオーソドックスな選手宣誓で会場の空気を和ませ、熱戦の幕が切つて落ちてきました。

◆ 昨年トップ2の直接対決で流れ

大会は全チーム総当たり形式で実施。次々と対戦チームを替えながら、四ゲーム（男子シングルス、女子シングルス、混合ダブルス）から成る試合が延々と続きます。その中で抜けたのが、市岡小、田中小、八幡屋小、港南中。中でも注目されたのが、昨年のトップ2である港南中と市岡小の直接対決。これに市岡小が四対〇の完勝で昨年（三対二で港南中）の雪辱（ゆきじゆく）を果たしたことで、Vへの流れが加速。ストレート勝ち八を含む十一勝〇敗一分け、勝ち点三十七、取得ゲーム数四十八という圧倒的な戦績を残し、通算四度目の優勝を飾りました。

一位には八勝一敗四分け、勝ち点二十八、取得ゲーム数三十六の田中小が、二位には八勝一敗四分け、勝ち点二十八、取得ゲーム数二十五の八幡屋小が入り、通算七度の最多優勝を誇る港南中は七勝一敗四分け、勝ち点二十五、取得ゲーム数三十一の四位で、惜しくも入賞を逃しました。以下、⑤港晴小⑥三先小⑦築港中⑧池島小⑨築港小⑩市岡中⑪波除小⑫港中⑬南市岡小⑭弁天小一の順。

◆ 選手による運営がスムーズに

閉会式では宮本隆司副会長（池島小PTA会長）が「市岡小学校は昨年優勝を逃し、その悔しさをバネにして、この間取り組んでこられたと見受けられ、圧倒的な成績だった。その他のチームも、非常にハードなスケジュールの中、最後まで楽しんでプレーされていたのが印象的。まさに親善大会にふさわしい雰囲気であった。また、全九十一試合中二十七試合と三割近くが引き分けということで、実力の拮抗（きうかう）も感じられた。この大会を契機に、今後とも単位PTA及び区Pの活動への「理解・協力」を賜りたい」と呼びかけました。

終了後、回副会長は「選手側の希望の形（総当たり戦）を自分たちでやって頂きたいというスタイルが二年目となって、大変スムーズに運営して頂き、区P側は安心してお任せできた」と話していました。

なお、この大会では試合数が多く、脚などを痛める選手も出る中、大阪府柔道整復師会の施術師が常駐して予防や応急の措置を施し、大会運営を安全面から支えました。

← 優勝を飾り充実感に浸る市岡小Pチーム



◆ 「各人レベルアップ掲げた練習」で優勝

大会終了後、上位チームに感想を尋ねました。優勝の市岡小は毎週末に同校講堂で練習を重ねてきました。部長の竹井一浩さん（四）は「昨年逃した優勝を」を目標に、大会前にケガしないことを徹底して臨みました。卓球部を支えてきた二人のファスティーダだったので、

ぜひとも優勝したかったですが、その三人の活躍で優勝できたので、喜びと共に感謝！です。

練習には各人の事情もあり、毎週の人も、ちょこちょこの人もいましたが、マスタークラスのベテランから才能豊かな小学生にまでお相手して頂きながら、『各人が前回よりもレベルアップ』をテーマに取り組みました。それとやはり団体戦ということで、まずはメンバー集めそしてそのメンバーが仲良く楽しむことでモチベーションを上げました。優勝できたので、特にチームとしての反省点はありません(笑)が、個人的には『あれは勝たないと』という試合が幾つもありました。来年に向けては、偉大な先輩たちが抜けるので、まずは継続することを目指し、数年後にまた優勝争いできる位置まで登ってほしいという頑張ります。なので、部員募集中心！男性でも女性でも、経験者でも未経験者でも、とにかく楽しく真面目に練習してほしい。お待ちしています。

◆「OBの協力や助っ人の頑張りで準備」

準優勝の田中小は1の大会に向けて昨年11月から毎週一回、同校講師の夜一時限半から11

準優勝に爽やかな笑顔の田中小Pチーム①と三位入賞に大喜びの八幡屋小Pチーム②



ずつの練習を重ねてきました。代表の杉永博樹さん(四一)は「人数不足で助っ人さんに助けられての参加だったので、『ケガのないよう、楽しくやりましょー』を目標に出場しましたが、そんな周りの人たちに助けられながら準優勝でき、大変うれしいです。練習ではルールをしっかり身に付けることに始まり、サブ、レシーブなどの基本を繰り返しましたが、OBさんから助っ人さんに、親切・丁寧な指導があったことが大きい。その上、今日は応援や差し入れまでして下さりました。反省点は、もっと早くから練習しておけばよかったということ。来年に向けては、現役部員を募集して層を厚くし、

優勝を目指したいです。」

◆「基本の徹底が実って三位」

また三位の八幡屋小は同校で週一回、練習を重ねてきました。部長の濱田修志さん(四一)は『楽しい』練習の成果を出す『優勝』を目標に出場しましたが、入賞が決まった瞬間、皆で飛び跳ねて喜びました。しかし三位との差が僅かだったので、『あの時のミスがなあ…』などと悔しい思いもしました。練習ではとにかく基本を徹底しましたが、それが実り、昨年よりグーンとレベルアップし、雰囲気も良くなり、優勝を目指して一丸になったことが入賞の一番の原動力だったと振り返っています。また子供たちの球拾いなどの協力で練習に集中できたことも大きかったです。今後に向けては、試合経験を増やして応用力と精神力を鍛えていきたいと思っています。我が部は立ち上げてまだ一年と少いですが、中年パワー全開、メンバーに恵まれ、和気あいあい楽しく青春しています。来年の優勝をめざし、低学年部員の増員を必須の課題として取り組んでいきますので、興味ある方はぜひ一度のご訪問お待ちしております。

健康ウォーキング

区老運名物イベント、最後は甘酒で



「甘酒を飲んだ後、『さあラストウォークや！』と健康ウォーキングに出発する港区老人クラブ連合会会員。二月二十七日朝、夕風公園

「ラストウォークは甘酒でー」。港区老人クラブ連合会（区老運）の秋～冬の名物イベント「健康ウォーキング」。その最後を飾る催しが一月二十七日（金）に行なわれました。

いよいよへ続いた暖気が途切れて寒がぶり返したこの日の朝十時。好天下の夕風公園には会員ら百数十人が集合。原田壽会長（七十七）の激励のあいさつの後、きりりと冷えた空気を吹き飛ばすように、「さあどんどん飲んで」とどっぴんの甘酒が紙コップに次々とそそがれ、それをすすりながら、至る所に談笑の花が咲きます。

やがて十時半ごろ、「さあ出発やー」の声が上がり、『ただいま、健康ウォーキング実施中！』の幟を手にしたリーダーを先頭に、グループごと公園を出発していきました。気楽におしゃべりしながらも、足取りはみな軽やか。それぞれ二～三十分歩き続けて目標の公園に着き、そこで流れ解散となったようです。

◆ おしゃべりしながら楽しむ

原田会長に代るといふこのイベントは七年ほど前に始まったことで、毎年九月から翌年一月までの毎月第一・第四金曜日の朝に開催。区の東

「出発前に甘酒を何杯も飲んで温まり、元気をつける「健康ウォーキング」参加者たち



西でA班とB班に分かれ、参加者の居住地からの距離に偏りが生じないよう、出発地点や到着地点やコースをその時々に変えながら歩いています。その六カ月間の最初と最後は夕風公園が出发点になり、この日はその最終回というわけで、甘酒がふるまわれたのでした。

この日、B班の一員として出発した西八重子さん（七〇）＝磯路クラブ＝は「四年ほど前から参加しています。冬でも暖かくなって汗が出ます。一人で歩くのもいいですが、こうしてみなでおしゃべりしながら歩くのが楽しいんですわ。色々な地域の情報を交換し合えるのも嬉しいことです」と歩きながら話していました。

生涯学習の花 満開

春いちばんふれあいフェス



→ 生涯学習の花が咲き競った「春いちばんふれあいフェスティバル」(写真は喝采を浴びた田中小生涯学習ルーム「スイートピー」の合唱)

春の訪れを前に「生涯学習の花」が一足早く咲き競いました。二月二十日(日)、弁天町オーロラORC200生涯学習センターで開催された「春いちばんふれあいフェスティバル」には区内十一小学校の生涯学習ルームが参加、一年間の成果を発表し、学びへの意欲を刺激しました。同フェスティバル実行委員会と港区生涯学習推進員連絡会の主催、同センターの共催で十七回目。港区役所と大阪市コミュニティ協会と港区青少年指導員連絡協議会が協力。

★美しいハーモニに会場一体

午前十時からの開会式では磯中/ミンチ・実行委員長と采實の田端尚伸・港区長があいさつ。舞台では各生涯学習ルームを中心に、友情出演も加わり、昼の休憩を挟んで、歌や踊りが次々と披露されました。全二十演目中、コーラスが最多の十一を占めたのは、もとも「コーラス発表の場」で発足したこの催しならではの傾向。練習の積み重ねが感じられる美しいハーモニや弾むようなリズムに手拍子が起こり、会場が一体感に包まれる光景も見られました。

その他、民謡、居合道・杖道、民踊、フラタ

ンス、健康体操、シークエンスダンス、気功歌体操、エイサーなどバラエティーに富んだ発表に客席から拍手と手援が絶えず、午後三時半西澤恵子・実行副委員長の閉会のあいさつをもって全プログラムを終了しました。

★作品展示や体験「コーナー」も

一方、ロビーや研修室では午後四時まで、生け花・ステんシル・絵手紙・花「コミリ」和紙わぎの絵・トルペイント・粘土細工・フラワーアレンジメント・パッチワーク・ペン習字・つまみ細工・大人の塗り絵・ブリザードフラワー・書道・フラワーボトル・エコ手芸・陶芸・押し絵などの作品展示や、日本語交流などの活動紹介、障害者作業所のバザー、ヨガ・操整体・くものくるシヤボン玉などの体験「コーナー」が来場者の関心を誘い、お茶席では鑑賞の合間にひびく抹茶を味わいつつ交流する光景が見られました。

★「ダンスで楽しい人生」を八十歳女性

舞台出演グループのうち「運動機能が衰えてきた中で、老化防止のために体を動かしています」との紹介で登場しながらも、ルンバやフライングの爽やかなステップが会場の手拍子を誘って

たのは池島小生涯学習ルーム「シークエンス・ダンス」グループ。長い社交ダンス歴を誇る横山義行さん(七四)は池島在住の指導で毎週水曜日の夜に港スポーツセンターで三時間ずつ練習を重ねています。メンバーの年齢幅は七十

四〜八十七歳。その一人である樋口信子さん(八〇)は出演後、「健康に良いだろう」と五年前に始めました。ステップは、覚えては忘れ、覚えては忘れの繰り返しですが、いったん覚えてしまえばあとはリズムに乗るだけ、とにかく楽しいです。おかげで整骨院に行かなくて済むようになり、ウォーキングもスムーズにできるようにな



→親切に会場をリードした八幡屋小の「健康リズム体操」(上)と、抒情豊かに演歌などを歌い上げた築港小の「歌謡教室」(下)

なり、性格もさらに明るくなりました。先生が辛抱強く、何でも言える雰囲気なので、安心です。「これからますます張り切って続けていきたいです」と話していました。

★「コーラスで精神強く」七十代男性

同じく出演グループのうち、背筋をすっきりと伸ばし、指揮者をしっかり見つめ、表情も豊かに、明確な発声と流麗・爽快なハーモニーで、指揮者(加藤八千代さん)オリジナル編曲の『琵琶湖周航の歌』(ふるさと)風バージョン』を西浦さんのピアノ伴奏で披露して喝采を浴びていたのは田中小生涯学習ルームの混声合唱団「スイートピー」。毎月第一・第四日曜日の午後、同校多目的室で練習を重ね、来年で発足二十五周年。その一息ある近江隆司さん(七〇)は出演後、「発声十年を前に入りました。先生は高度なレベルを求められ、発声練習は厳しく、曲想に集中するため暗譜を求められます。今日の『ふるさと』は『情景を包み込むように』と指導されました。出来は八十点くらいかな笑。ここは客席との距離感がちょうどよく、気持ちよく歌えます。ここについて発表の場がある

「爽やかなステップに拍手が沸いた池島小「シークエンスダンス」(上)と、流れるような動きで自然の美を感じさせた弁天小「フラダンス」



のはとても励みになりますね。「コーラスを続けることで、恥ずかしさや失敗に堪える力がつき、精神的に強くなったと感じています。これからも心身の健康のために続けていきたいと思っています」と話していました。

★歌謡曲を唱で楽しむ女性たち

同じく出演グループのうち、小節を利かせ、抒情豊かに『越佐海峡〜恋情話』『もう一度恋をしなごら』などを披露して「歌謡曲を合唱では面白いなあ」と感心されていたのは築港小生涯学習ルーム「歌謡教室」。毎月第二火曜日の午後、大元先生の指導の下、演歌を中心に童謡・唱歌

からポップスまで幅広いパートナーをめとして練習を重ねています。出演後、メンバーはオーケストラ横の喫茶店で「音譜から教えて頂けるので、自己流でなく正確に歌えるようになり、とても楽しいわ」なまじ喋り合っていました。

★「陶芸三昧一体」と「書道」

一方、展示会場へ、傘立て・花瓶・大皿などを出品し、工程説明を付けた展示が「分かりやすいわ」と好評を博していたのは弁天小生涯学習ルームの「陶芸コーナー」。このセンターなご



→ 洗刺とした動きで会場を元気づけた築港小の「エイサー」⑤と、円熟の筆致に感嘆の声が上がった三先小の「書道」④

一体となって初めて良い作品ができます。今日は少しでも陶芸に興味を持って頂けるよう、①乾燥中②素焼き③八五〇度④焼成⑤二四〇度⑥など製作の流れが分かるように並べてみました」と話していました。

★「書道やらたごう三先の夫婦」

またホール前通路の書道作品に観入っていた夫婦(七十代と六十代、三先在住)は「地域のポスターを見て、『ちょっと覗いてみよう』と初めて来ました。自分は下手やけど、人の作品を観るのは好きです。ほんまに上手ですね」(夫)「私は市岡にある息子の散髪屋を手伝っているので時間がありませんが、書道をやってみたい気持ちがあります」(妻)と話していました。

★「観るのは好き」と八十代女性の

また昼の休憩時間、市岡元町から初めてやってきたという八十代女性二人は「友だちが港健康教室の歌体操に出演するので、それを観に来ました」(書道、陶芸、粘土細工に素晴らしい作品がありましたよ)「もう体が動かないから、自分でできませんが、観るのは大好きです」(なまじ話していました)。



→ 工程説明を付けた展示が「分かりやすい」と好評だった弁天小の「陶芸」⑤と、个性的な絵と文が注目を集めた田中小の「絵手紙」⑥

★「自主的運営」な市岡区職員

また会場全体をくまなく繰り返し回っていた港区役所協働まちづくり支援課の花立課長(はなたち)は「地域の色々な層が力を合わせ、生き生きと自主的に運営されている姿は本当に素晴らしい。この生涯学習ルームのように、地域で行われる生涯学習活動は、普段交流のない人たちが新たに知り合いになったり、これまでの繋がりがより強まったり、学習内容以外でも大変重要な活動です。この活動を通じて人と人の繋がりが、いざという時の防災力にもなっているのではなごうしょうか」と話していました。

演劇ガイド

● あんがいおまるの一座『ハウチウウリン』波

除のフリースペース「石炭倉庫」を拠点に庶民の優しさを逞しげ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいおまるの一座による、ネブミが主人公のドラマチック・ミュージカル。「生まれてきて死んでいく 生きものの一生は どれだけ代を重ねても さすけられたその一回限りの命。なにが大切なかを。そんな人間でも生きていこうとしようだ」。ネブミとつしの烈な縄張り争いから、社会のありよう、人の生きようを浮かび上がらせ、このままではいいのか、それとも何かが間違っているのか、一人ひとりに問いかける。脚本・作詞：中村路子、作曲・編曲：北野隆、演出：あんがいおまる。出演はヨシシー原本、梶岡志保、麻倉ケイト、浜本克行ほか。四月十九日(日)十四時、十七時半に石炭倉庫で、四月二十五日(土)十八時、二十六日(日)十三時、十八時半に国立文楽劇場小ホールで、計五回公演。料金は石炭倉庫が前売一千八百円、当日三千三百円、国立文楽劇場が前売二千三百円、当日三千八百円(子供・

団体割引あり)。問い合わせ・申し込みは石炭倉庫(波除六・五・一八、JR弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安芸川堤防突き当たり右すべ。〇六五八一・〇六八四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九へ)。◆観覧しプレゼントあり

● 劇団はぐるま座『動けば雷電の如く 高杉普作と明治維新革命』

勤労人民の立場に立った演劇活動が続けてきた同劇団の最新作。安政

の開国に抗してせ直して独立を成し遂げた誇り高き人々を描く。――激動の幕末。日本侵略を狙う欧米列強の圧力に屈服する江戸幕府。長州征伐を前に敗北主義に陥る長州漢俗論派。その中で高杉普作と救国の志ある農民、商人・藩士らは「奇兵隊」を結成。国のため万民のため、親を捨て子を捨て、民族独立の旗を掲げて僅か七十名で決起する。俗論派を打ち破り、藩論を統一した長州藩は、四方面から十数万で襲いかかる幕府軍を四千余りで迎え撃ち、撃破。遂に明治維新の夜明けを開いた――。人間の底知れぬ力と歴史の重みを感じた「日本国民の真の強さと魂を見た」「これからの歴史を作ってい

↑四月に上演予定の劇団はぐるま座『動けば雷電の如く 高杉普作と明治維新革命』から



くのは僕たちだと思っただい」演技が素晴らしい背景画が奥行きまでリアルできれいだった」等々、鑑賞した高校生らが感想。主催は大阪公演実行委員会、後援は大阪市教育委員会ほか。四月十九日(日)十四時からクレオ大阪東(城東区、JR・京阪「京橋」駅から南へ、〇六八九五・二二〇〇)で、二十一日(火)十八時半からクレオ大阪中央(天王寺区、地下鉄「四天王寺前」陽ヶ丘駅)②出口から北東へ徒歩三分、〇六七七〇・七一〇〇)で、一般二千五百円(前売二千円)、中高生千八百円(前売千五百円)、小学生千円(前売八百円)。問い合わせは〇六八九五・八三六八(同劇団大阪事務所)へ。◆観覧しプレゼントあり

落語と腹話術に爆笑

市岡 西明寺で地域寄席さらに熱気



→地域の協力で開かれた「第六回市岡寄席」。桂福丸さんの古典落語二席や腹話術に笑いが絶えなかった。二月二十一日、市岡の西明寺で

港区の芸人の落語や腹話術にお寺の広間は爆笑の渦。市岡地域の地域寄席「市岡寄席」が二月二十一日に市岡二丁目の紫雲山西明寺(浄土真宗本願寺派)で開催され、大賑わいでした。「まち起し」と地域人材の活用を掲げて一昨年七月にスタートし、六回目。市岡地域活動協議会広報部会、市岡連合振興町会、西明寺繁栄商店街振興組合など市岡地域の諸団体・個人からなる「市岡寄席実行委員会」が主催。

◆「お寺は地域の拠り所」上座職

「お菓子付き、抽選会あり」の宣伝「ピーも効いて、定員六十名に立ち見も出る中、また運営協力金として呼びかけられたカンパに大勢が応じる中、寄席は午後一時に開演。同寺の坊守お堂の番人⇨住職夫人・熊本知子さん(い)の司会で進行了ました。

まず主催者を代表して住職の熊本直雄さん(い)が「お寺と落語は結びつきが強い。落語の源流は説教の説もある。また寄席は『寄りの合席』と書くが、お寺もその機能があり、こうして地域の人が集まり、笑ってもらっているのは素晴らしいこと。私と坊守とはお寺でついで結婚

したが、在家の方(い)でも仏前結婚式(い)がきえる。このようにお寺は人がなくなった時だけではなく、地域の人たちが生まれてから死ぬまでを支える拠り所。このことをぜひ知って頂きたい」とお寺と落語の深い繋がり(い)に言及。その上で「今日(い)も周辺の自転車整理に協力して下さっている地域の方たちがおられるが、ぜひ帰りには感謝の言葉をかけてほしい」と呼びかけました。

◆瀬川さんの腹話術「感嘆と爆笑

最初に登場したのは港区まちづくりセンター支部アドバイザーでもある腹話術師・瀬川(い)たか(い)し(本名:金子明憲さん)。腹話術の草分け・故川(い)上(い)のぼるさんに弟子入りして「背が高いから」とこの芸名をもらった(い)と逸話を紹介した後、靴(い)から取り出した人形のキンちゃんを抱えながら、「キンちゃん、自己紹介(い)しなさい」「はい、きのう難波(い)で人が殺された」「それは事故紹介(い)や」となりのやり取りや『ドラムの歌』のスピーチ(い)な掛け合(い)を(い)「ドラムン」に「リファマ」「ラシシ」(い)と声(い)を(い)換えて披露。キンちゃんのとばけた表情(い)も相俟(い)って、場内は感嘆と爆笑(い)に包まれました。

起きて泣いている。おお、そんなに感動したか
どろろが悲しかった？」「みんな寝てしまって、私の
寝床が無くなりました」――。

一席とも、現代人にも分かりやすいアレンジシ
ンとした言葉しかいと筋書き、インテリシラシからぬ
砕けた喋り口、生き生きとした表情、巧みな問の
取り方、テンポよくメリハリの利いた語り口が
連続大爆笑を呼びました。

◆賑やかな抽選会

このあと、港区役所から駆け付けた「みなり
ん」(港区のマスコミ・ネットキャラクター)が紹介さ
れ、愛嬌を振りまく中、福丸さんや瀬川さん
も入れて抽選会が行なわれました。水筒、高級
寝巻、バッグ、スカーフ、輪島塗箸、洗剤、匂
い袋、クリアファイル、扇子、タオルなどの景
品が、来場者の半数以上に次々と当たる中、住
職が特に取り寄せたという障害者作業所「ワー
クみなと」製造の「季節のジャム」が注目を集
めていました。今下に紹介↓

最後に再び熊本住職が登場。「これからも七
回、八回と続けて行きますように。次は五月が六
月、六月が予定しています。市岡の、港区の、大

阪のまち起しのため、力を合わせましょう」「
と再度呼びかけました。

◆「やみつき」になった市岡小学校

落語に大笑いし、抽選会で洗剤が当たって大
喜びしていた近藤義之助さんは市岡小学校の校
長。「最初からずっと来ています。元々落語は好
きですが、子供が开心的話は特に面白く、今
口のも頓知が利いすぎて、いつも愉快でした。
福丸さんはうちの小学校のそばに住んでおられ
るということも親しみを感ずき、一度来てからや
みつきになりました。ここは演者と客席との距
離が近いのがいいです。また、いつも自転車整
理する方がおられるなど、地域の結びつきがと
ても強いのを感じます」と話していました。

◆「皆のキャンパス」で女性

また近所から初めて来たという西園照子さん
(七四)は「主人が昨夏に他界し、一人で世話
になりました。住職はこうして地域のためのお
世話もなさり、本当に頭が下がります。この催
しはとっても良い。今日もとても面白かった。
これから皆んなのキャンパスで支えながらいっ
と続けてほしいです」と話していました。

美味しい♡季節ジャム

「ワークみなと」が心込めて

市岡寄席の抽選会で景品になった「季節のジ
ャム」は、ワークみなと(主に精神障害者を対象
とした就労継続支援B型の指定障害者福祉サ
ービス事業所。又四二一六三三、☎六五七一・七
五二二)の利用者が心を込め、島根県隠岐産の
夏蜜柑を砂糖だけで炊き上げたジャム。売上は
障害者の工賃に充てられます。季節性のため入
荷期だけ製造しています。

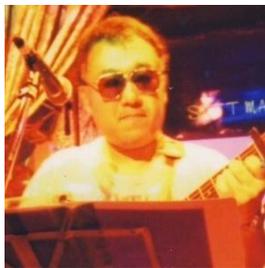
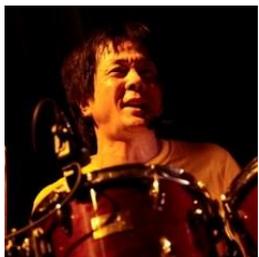


「まるやかで爽やか」と好評の「季節のジャム」

ライブ情報

● 八幡屋出身のロックドラマー **桐田勝治さん** きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のよつなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガール」の十八枚目のアルバム『**解識**』(過巻)太陽「直撃」満開オラシヨ「翼の記憶」厭離穢土「涙の価値」など十一曲が好評発売中。三三〇〇円。三〇三・三三八一・九一八〇ファーストセル▽五月二日(土)十七時半、三日(日)十七時から江坂「ミュージ(吹田市豊津町)一〇・一五ライブプラザブ」三階、地下鉄江坂駅⑧出口歩一分、三六八三八七・〇一〇三でガール「ガール」のツアーライブ「狂い咲きジャバロック」出演予定。



→ 桐田勝治さん(上)とメンバーさん(下)

● 三先のフォーク歌手、ペドロさん 切断フラザ

―ズ(左手親指切断の共通体験を持つ)三人!! ペドロ、ぼん、ちゃん!!で二〇〇六年結成のリーダーやソロで温かな雰囲気のアリジナルフォークソング▽毎月第一・三木曜各二十時からバー「ザ・セブ」(中央区西心斎橋二・一七・一三新スミヤビル地下、三六二二・一六四二七)で「アメリカ村フォークジャンボリー」を主宰▽毎月第一火曜二十時半からバー「ロージ」(中央区西心斎橋二・九・五日宝三ツ寺会館地下一階、三六二二・三九九九)で開催のノンジャンル企画ライブにレギュラー出演▽毎月第一火曜二十時から「かつおの遊び場」(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町センタービル 階、三〇九〇・五八八二・七〇一五)で開催のノンジャンル企画ライブに「切断フラザズ」としてレギュラー出演。

● 市国元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくめだらしく』好評▽四月二日(金)十九時半が

らあわや食堂築港一・八・一七、地下鉄大阪港

駅からみなと通り南側を海に向かつて三分、三六五七・一〇七〇で同ライブ「あわや de Night」②「ブルージー」でクラシカル「Nightの巻」を主催。出演は他にタンディ「ボーイスズ」、アカバナー「食堂さん」ほごぼごさん、藤田さんなど。二十一時半から自由ステージ(飛び入り歓迎)。一飲物付五百円▽三九〇・二二〇一・九五五〇専用FAX〇六・六五八二・五七二五Eメール kaohanna kyara@yahoo.co.jp http://www.oconnor.jp/hanna2383 (港新聞ホームページにリンク)



→ 花☆キャラの演奏風景

文化的イベント案内

みなとカルチャー

● 港図書館

① 図書展示「北陸新幹線開業記念 新幹線の本」展 Ⅱ 東海道新幹線にまつわる本を中心に展示。三月三十一日(火)まで開催中② おたのしみ会 Ⅱ 毎週水曜日の十五時半〜十八時にじゅうたんコーナーで。幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要③ あかちゃんのおたのしみ会 Ⅱ 毎月第一金曜日(四月は三日)の十一時〜十二時半にじゅうたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のおたのしみ会「よりの赤ちゃん向け。申込不要」(06576-1346)。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみ木

ルシリーヴ・オー・エッセ」 富田勲の集大成
 …『源氏物語幻想交響絵巻』関西初演と題し、日本が誇る世界的作曲家・編曲家・シンセサイザー奏者である富田勲さんの「ユタナ」回曲の「二〇一四年改訂版(関西初演)」を、朗読と歌それに雅楽を交えた演奏で贈る。指揮は関西フィル首席指揮

者・藤岡幸夫さん(京)とばの朗読と歌と琵琶は坂田美子さん、琵琶は久保田晶子さん、箏(二十五弦箏)は滝田美智子さん、龍笛と篠笛は西川浩平さん、箏は稲葉明德さん、箏と笙は西原祐一さん。プログラムは、第一部が藤岡幸夫と富田勲による『源氏物語幻想交響絵巻』をより楽しむためのレクチャー(約十分)と『源氏物語幻想交響絵巻』第一部(約五十分)、

第一部が『源氏物語幻想交響絵巻』第一部(約四十分)。四月二日(金)十八時半からいずみホール(JR環状線「大阪城公園駅」歩三分、JR環状線・東西線「京橋駅」南口歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪」シネスパーク駅歩五分)で。S席五千円、A席四千円(全席指定・消費税込)。無



→ 指揮を担当する関西フィル首席指揮者・藤岡幸夫さん(©SHIN YAMAGISHI)

「京」とばによる朗読と歌と琵琶の演奏を担当する坂田美子さん



料見サージあり(先着 十名、申込締切三月十九日)。06576-1346。

● 弁天町ORCC200生涯学習センター「きこみ手芸 一日体験」

初心者にも簡単に作れてプレゼントにも最適。三月十九日(木)十二時。講師は本根富美子さん。定員 十名(先着順)。受講料千円、教材費六百円。持ち物は、はさみ(あれば)目打ち。06576-1410。

● 弁天町ORCC200生涯学習センター「アール」

「アール」 興味ある人への手ほどき講座。
 ① はじめての日本画(朝クラス)② 夕方クラス③ はじめての一步 油絵教室④ 楽しく描こう⑤ 油絵⑥ 中国語会話(入門・初級)⑦ 楽しいスクワエラダンス入門⑧ 篆刻で般若心経に挑戦

等々。日時・参加費など詳細は同センターへ。☎
六五七七・一四一〇。

● **弁天町ORC2000生涯学習センター「オー**

ク弁天寄席 旧・弁天町市民学習センター時代

から親しまれた人気イベントの再開第十一回、
通算第 四二〇回。三月二十五日(水)十九時〜二
十時半に講堂へ。出演は笑福亭學光さん(徳島
出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さ
ん(大阪出身の講師、旭堂南校門下)をしぎ
ユラーに、今回は笑福亭純瓶さん(堺市出身の
落語家、松竹芸能)、高井ギヤラさん(女性)ト
芸人、横山プリンの弟さんも。先着回 一名。当
日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会
同センターが主催。☎六五七七・一四一〇。



→オーク弁天寄席にレギュラー出演の落語家・

笑福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

←笑福亭純瓶さん①と高井ギヤラさん②



● **ガラアートナカイグループ「ガラアート**

NAOMI教室作品展

伝統の京都手描き

友禅手糸目技法を応用し、二原色を基本に竹串
で色遊び。ガラフ特有の透明感、幻想感を楽し
める。絵心なくても大丈夫。各地イベントでの
「二日お楽しみ会」作品も展示。四月一日(木)
〜十四日(火)の九〜十七時(土日休)に港区民ギ
ャラリー(港区役所一階)で。入場・鑑賞無料。☎
六五七六・二三四四 金元(磯路 二自)。

● **ねじやらしのシャンテ☆カフェ**

懐かしい
歌つきも若菜も声を合わせる目例イベント。
毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡
屋一・四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リ
クエスト中心に約 一時間。歌集貸与。参加費千
円(税込)。第十一回は三月二十八日。問い合わせ

せは「ねじやらし音楽事務所」(弁天四・一
・二・三〇二) ☎六五五八・六八八、ht
tp://neco.jyarasai.jimd
o.com/または「ゆずりのはな」(六五
七一・六八四)まで。

● **ぎやらりー&かふえ風庵「アトリエククナ**

プリザードフラワー 生花に特殊加工を施し、

花本来のみずみずしい感触を長時間楽しむため
に生まれたプリザードフラワーの数々をアトリ
エククナが「コーディネートして好評展示中。」記
念日のプレゼントに「お礼の品に」ご購入の
人も。三月三十一日(火)まで。「風庵」は南市
岡三・二・一〇(繁栄商店街内)、☎四九八五・
五九八、十時〜十八時開館(日曜定休)。



→風庵「プリザードフラワー」展示作品から

ひとくちPAR

(二行)税込1000円

● そろばん学習が子どもが変わるー右脳活性化

見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」を「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **【検索】** 夕凧 一三三七三津神社西側 **☎** 六五七〇一六八七七。

● 放課後・春夏冬休みは児童保育へ 入所児童

集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯090-5891-0333
四(西原か) **☎** 六五七〇一六八四三めあがの児童。

● 介護のことはお任せ

①介護や老いの相談に乗ります②介護の手続きを代行します③デイサービスは送迎付きで入浴・食事・手芸・ゲーム・テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操おやつなどを楽しまします④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院などを手伝います。NPOみなみ川町ケアセンター(南中區三二六-一六) **☎** 六五八二一四八八〇、FAX六五八三二二二二。

● あなたのふとんが生まれ変わる

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛敷(ふとん)二万円。理想の枕つへ

、フライダルぶとん選びもお任せ。ふとん館
ひらのや(南中區三二二-一八繁栄商店街東入口
フリーダイヤル0210-4149-55)。

● おしゃれ着いっぱい

神戸メーカー直送、お出かけから普段着・肌着まで。サイズ豊富。フ
ティック・ミント(八幡屋一四-八、入舟公
園前、大阪信金横十、十八時営業、日不定休。

● ボクササイズでシェイプアップ

女性も小!
中高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。
月会費八千円(無期限十枚つづりチケット八十
円)。入金金二万円を月会費半額。練習日は月・水・
金の十九時半〜二十一時半。港ホクシングジム

o.jp/minato gym)

● ピアノはじめませんか

大きい人も小さい
人も初歩から楽しくレッスン。 **☎** 六五七四一三
四 三 東條和恵(磯路一-一〇-一)。

● 新しい作業所でお仕事しませんか

障害者
手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶
又は軽作業。二十名。就労支援B型作業所・相
談支援事業所 わたぼうし(夕凧一-一八-一〇
サンポートハイム夕凧一階 TEL六五七六-

0100、FAX六五七六-01011)。

ひとくち伝言板

● インク差し上げます

プリンター買い換え
のため不要になったがなり大量のBCC-90p
GBK(顔料)ブラック、BCC-90PBKフ
ラック、BCC-70C(シアン)、同MM
ゼンタ、同Y(イエロー)を無料で。全てイン
クジェットプリンター「キヤノンi5500」
に対応。 **☎** 六五七二-四八三六港新聞。

読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント
名を書いて二日必着で港新聞へ。

● 関西フィル「いずみホールシリーズ」

36(みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● 弁天町ORC200生徒学習センター「オー

ク弁天寄席」(三)文化案内)招待券をへア一組に。

● あんがいおまる一座「ハウチュウワン」(演

劇ガイド)招待券をへア二組に(日時指定)。

● 劇団はるまき座「動子は言葉の如く」(演劇

ガイド)招待券をへア一組に(日時指定)。